



撥火圖彙

下卷





龍門リウモン

世よ傳つたて曰い唐土たうどの龍門リウモン
 の龍リウ（鯉コイ登のぼりて得えて後のち龍リウ
 お化けして天上てんじやうとけ説ちり
 よつてこ色いろをつくるものあり
 ○圖ずのどく龍リウの下した小經せうけいを置おか
 自然しぜんと龍リウとのちりちり龍リウの
 本もとへのちりちり龍リウ化けして
 龍リウとちり雲うみをおこし天上てんじやうと
 次つぎ乃すなはち圖ずのどく
 この鯉コイへちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちり何なに乃すなはちちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり

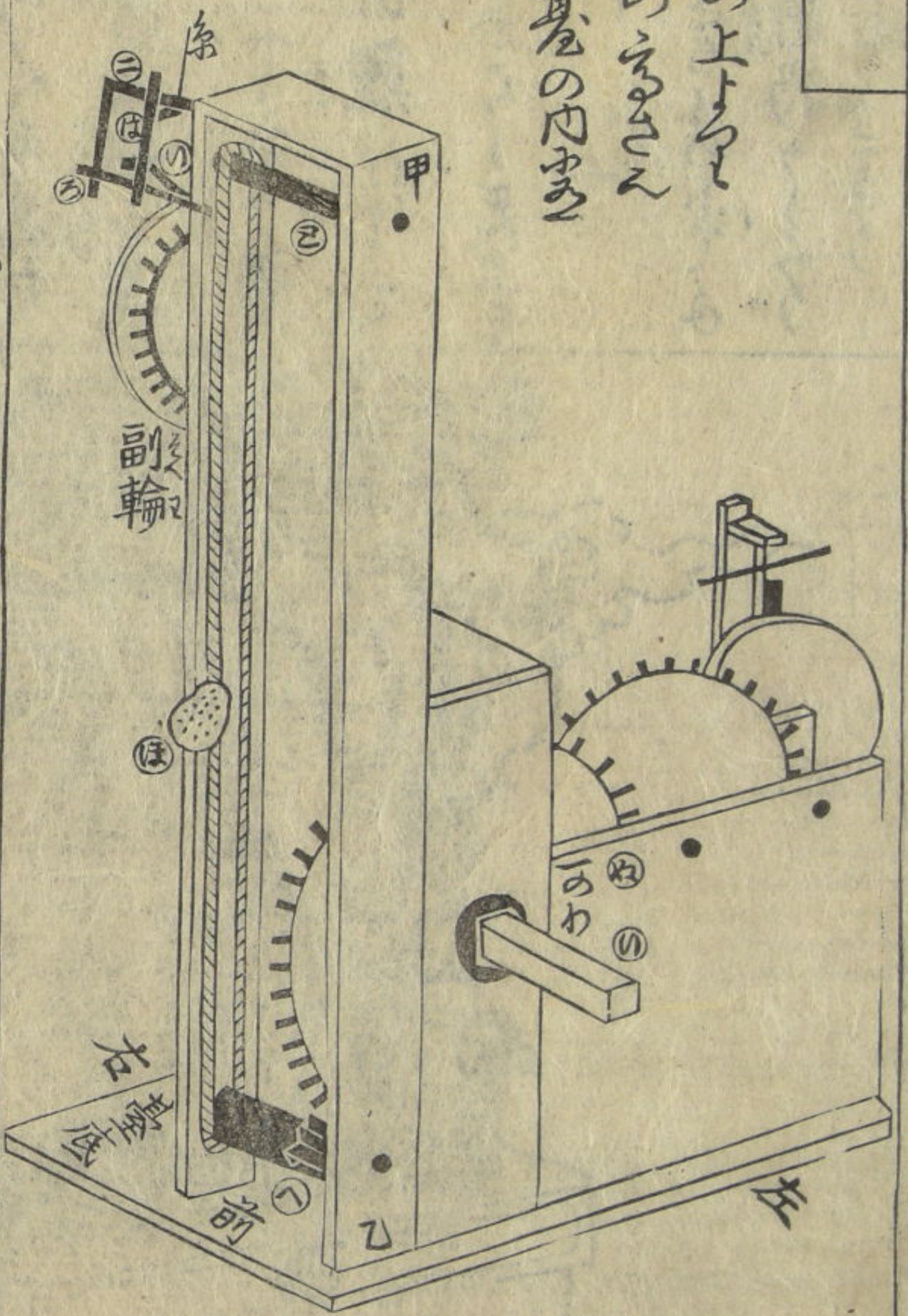
全体



内がくく

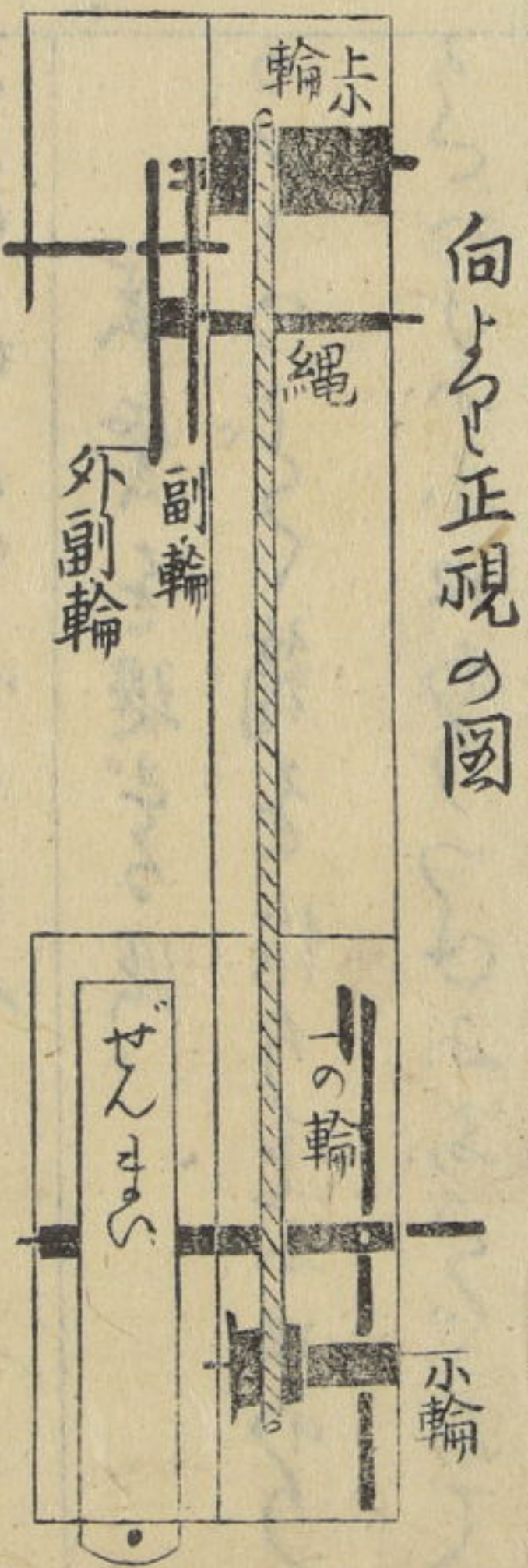
甲乙の意ハ山の上より
臺乃底までの上をこえ
故み下半分の基の内を
上半分の
山の内をあり

糸ハ終と下へ
引付わく



けかろくろ一休乃趣意ハ鯉と張わきこわと内乃腹の
方ハ鉄を付けおくありさてまこせんまのて磁石
りつて漆の内紙のがくはるえの如く志く内紙登
るゆ外乃漆のありとと鯉磁石ふつてのがらあり

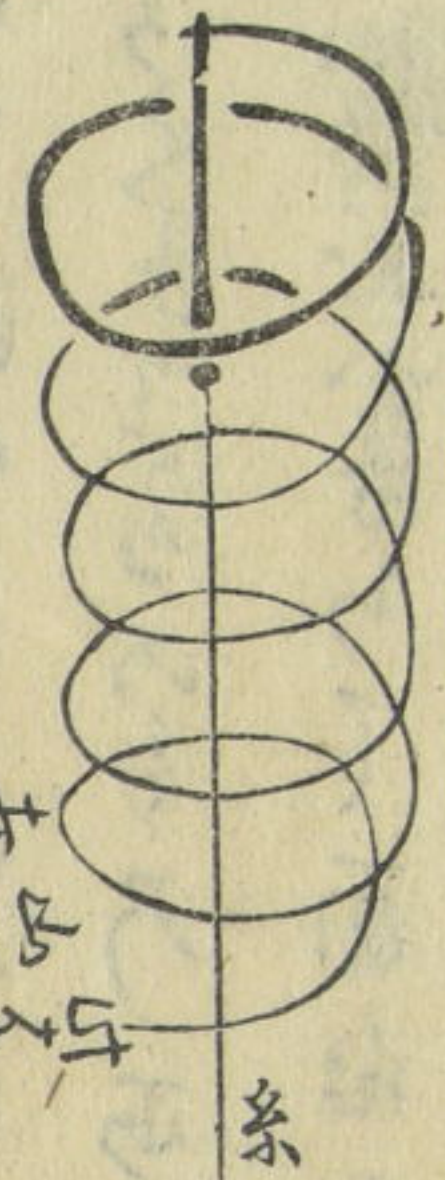
一の輪のよとぬお
むらて周の故其脇の小輪
よとぬおむらてめぐる
よとぬお磁石よとぬお
むらてのがらあり



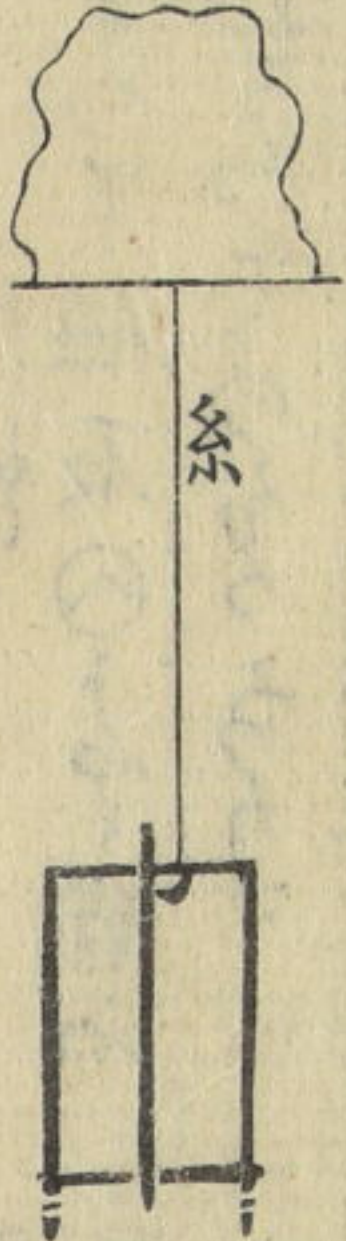
向より正視の図

上下小輪の大小ハ先丈俵ハ定め鯉と登りせてさるふ
のむらむらて後ハ龍おぐるやうふけべー其登りつめ
る所ハ草本をまげらせて見くぬやうふまぶー登りつ
めて漆のうらうらありのむらむらめわ内草本あり
うらうらなるのそ乃ふて龍づきりらげお初のま
漆つがへ落ちて面白くべ上小輪の心を二つよりしてそれ
ふてそと副輪とめぐるあり

龍制作の法



龍と縮てけど



糸を引て其よりとかけたる
亦中人乃 図とて合をそ
あきつらり

先を金にあらざりてくろりくや
何ぞんもめがせ骨乃はさる

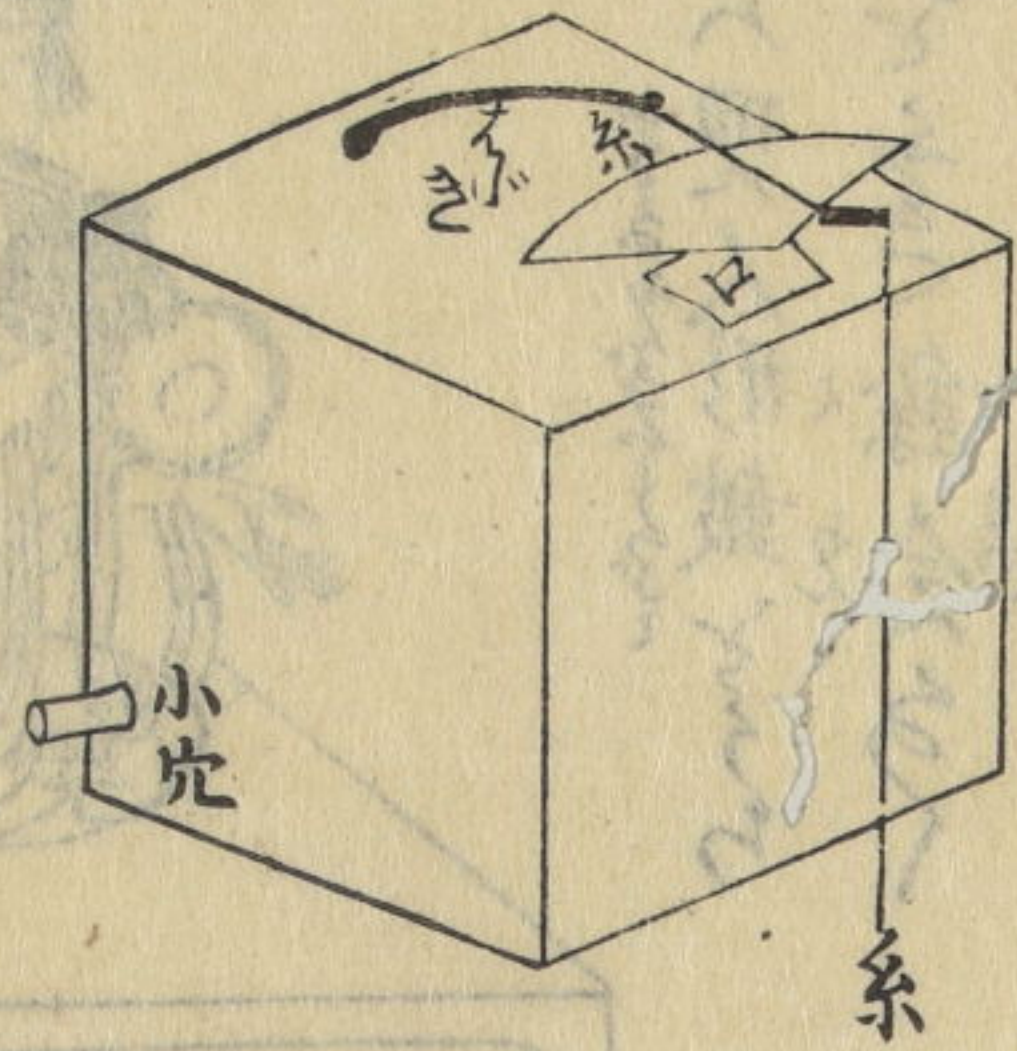
ちぢらんのだくこまにやう骨
と一外面を縮めて筋の形を作り
彩色してめらゆ次の図のと

上のそへ糸かけ下のそへ山の上へ
折つらりあり糸乃下のそへ取
ひけり 縮まるあり頭の
方へのどくふくもべ

雲を現る法

くくのどく箱を作り上は口わり
くつらふ小口わりつひあさるて

黒雲を現る法



いとつふしを強く下へひくあり上つて筋い
つまばくろくもたふしつらと色そのふへ常おん
ふてそらわけて居る糸ゆるまるときはどきふせ
あひて煙しづらありけ箱の上龍の側あらくもあり

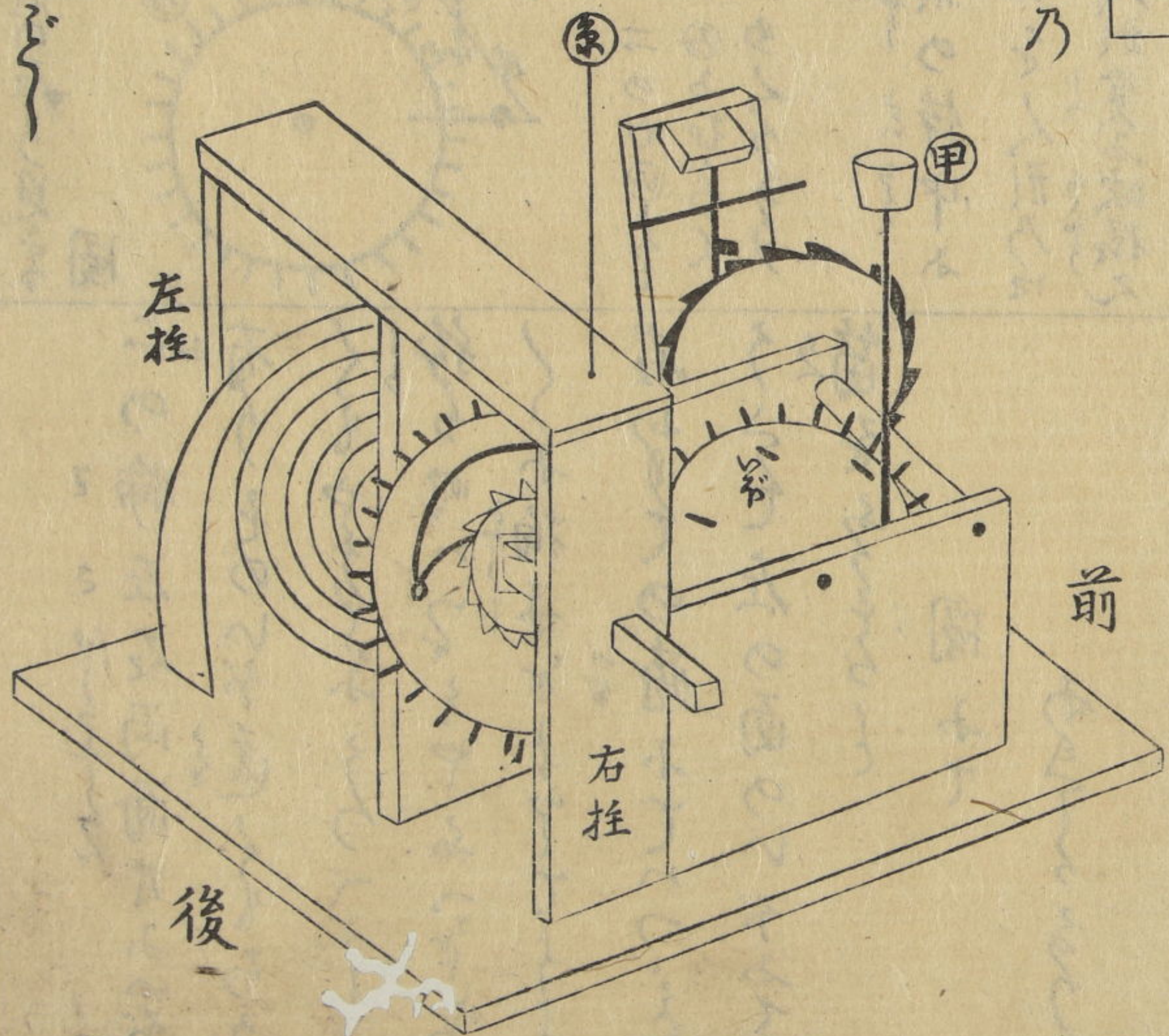
鼓笛兒童



是ハ兎人形鼓と笛と
笛と笛と餘念へる
旋とつらるる体あり

其臺の内總圖

甲ハ風袋をおせり笛乃
音をえらるる物あり
乙ハ人形の子引ひて
鼓をえらるる物あり
風ぶくらりやわ
手と動くもの
くまハ二乃勝乃
いざあり高
次乃分圖
明なり先人形乃
体中乃仕組次乃



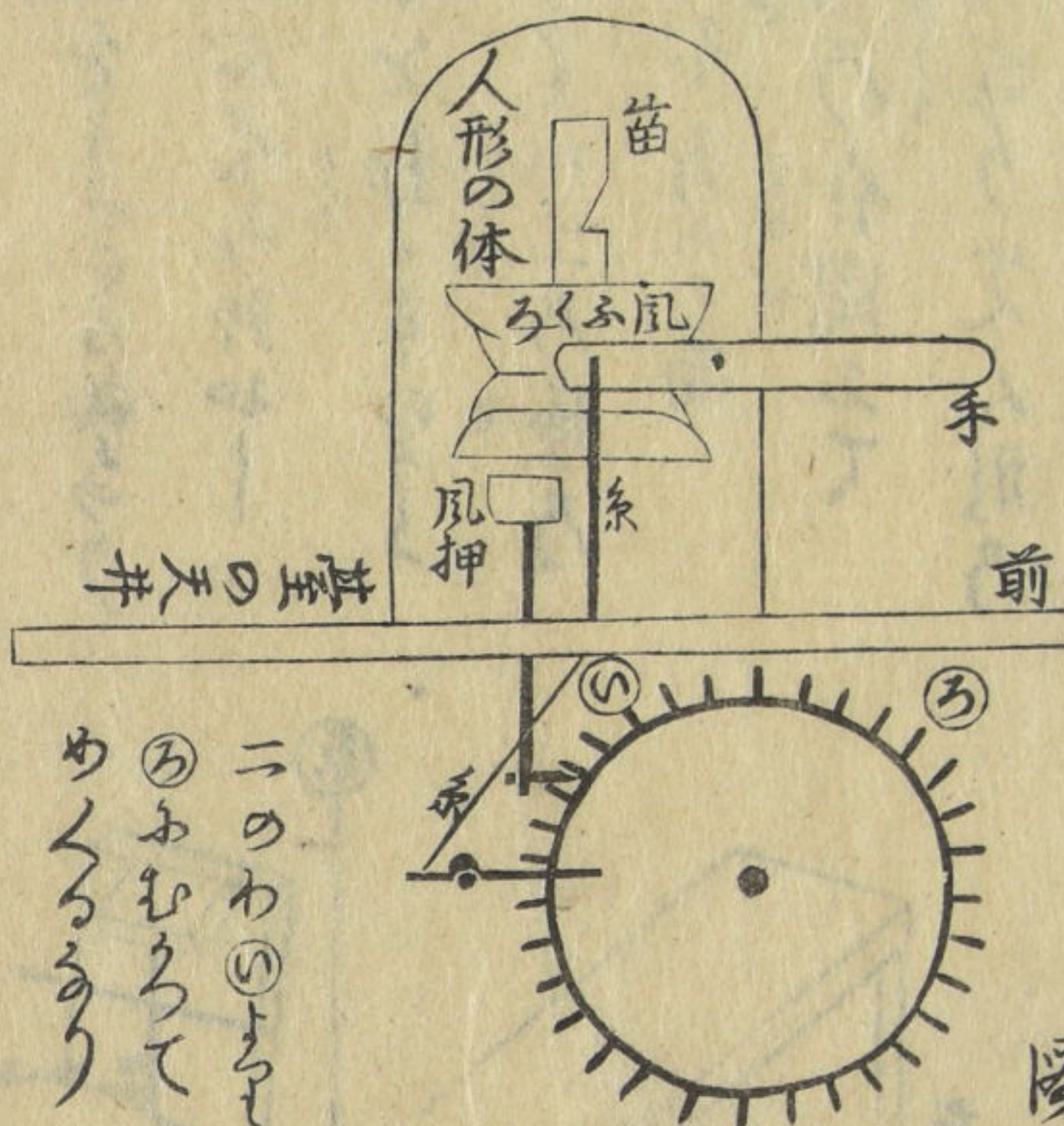
内かくるるの次
其笛ハ人形の体中
仕込むその法厚紙
風袋を作り外ハ笛
風袋をおせり笛音
はまらり小兎
籠中ハ管声をえら
と同一鼓を折ハ人
を糸おて引るる
ハ皆籠中

わさ左の

ど

人形体中乃仕組

人形の右より見たる



二のわの①より
 ③おむらうて
 ゆくらあり

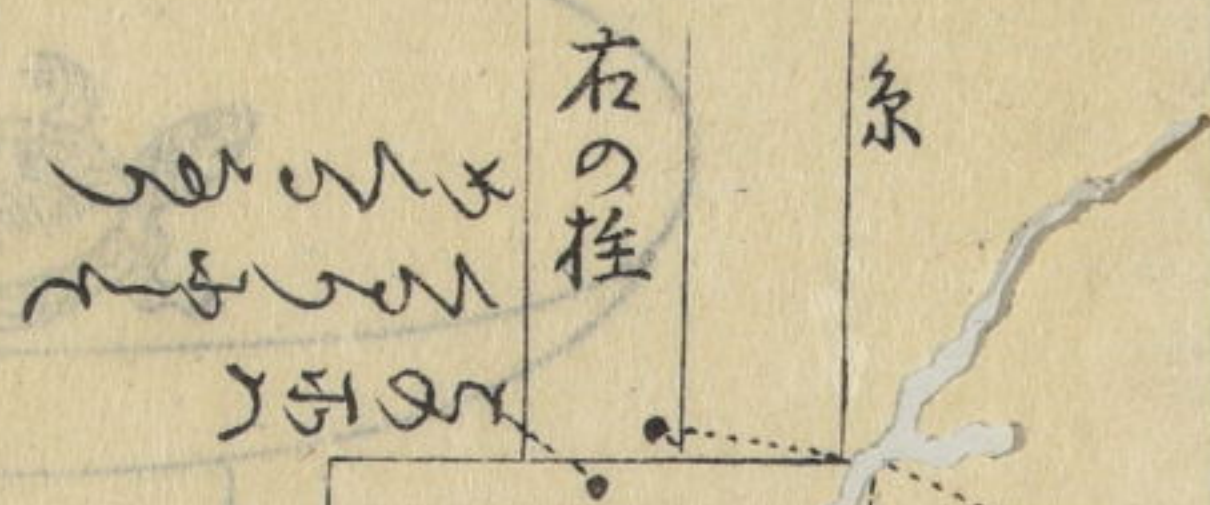
風袋乃上面へ人形の体中へ
 付らあり 笛の上を人形乃に
 まで通すべし 後
 付らあり 人形実吹極え

二の輪左右両面におい
 有りそのいが遠くもあ
 くもやうくふらうつべ
 後付の付らありやふつ
 くお拍子をとらして
 右わりのの病おていつ
 うとせ左の面のいお
 笛をふらうと

図おて

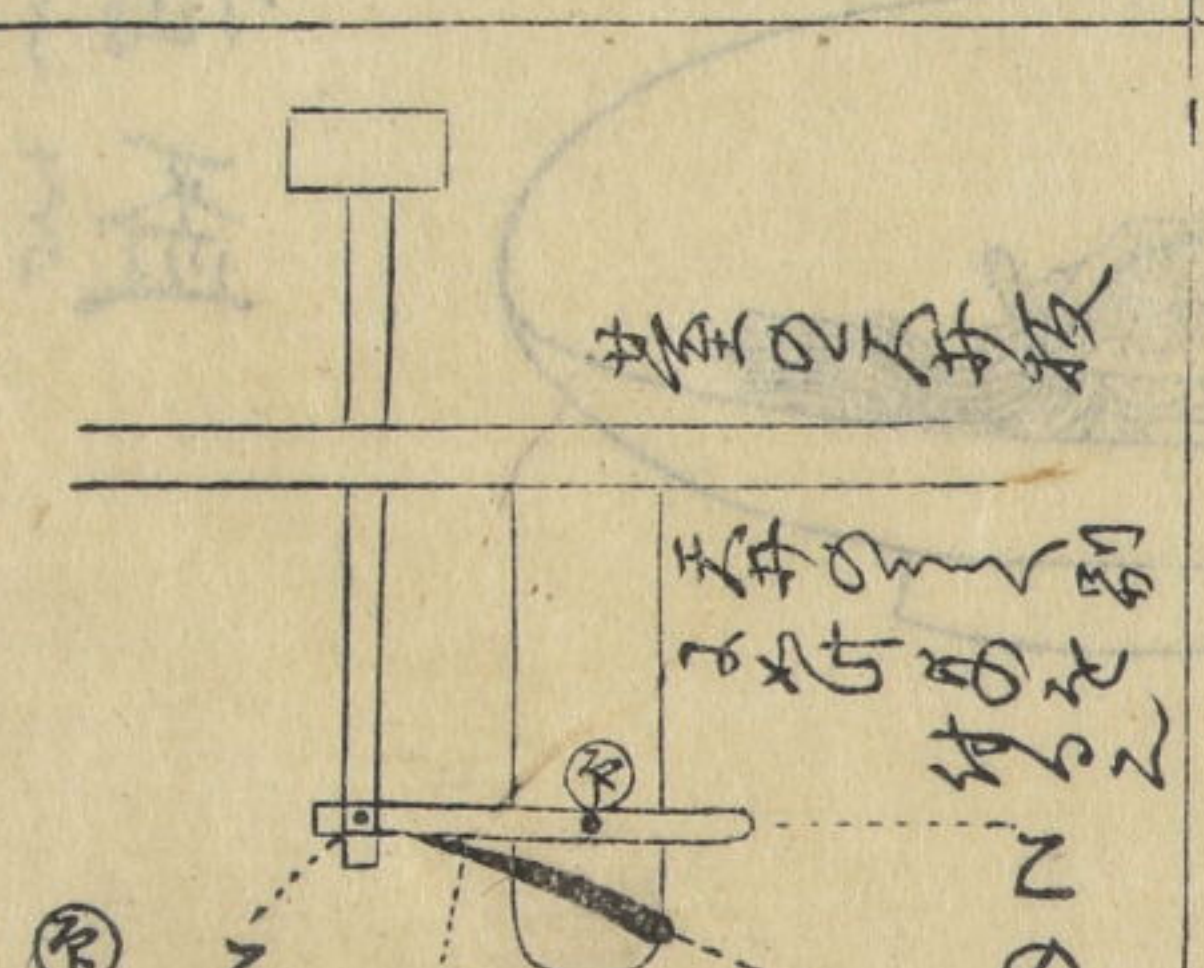
あきくあり

右の内柱の図



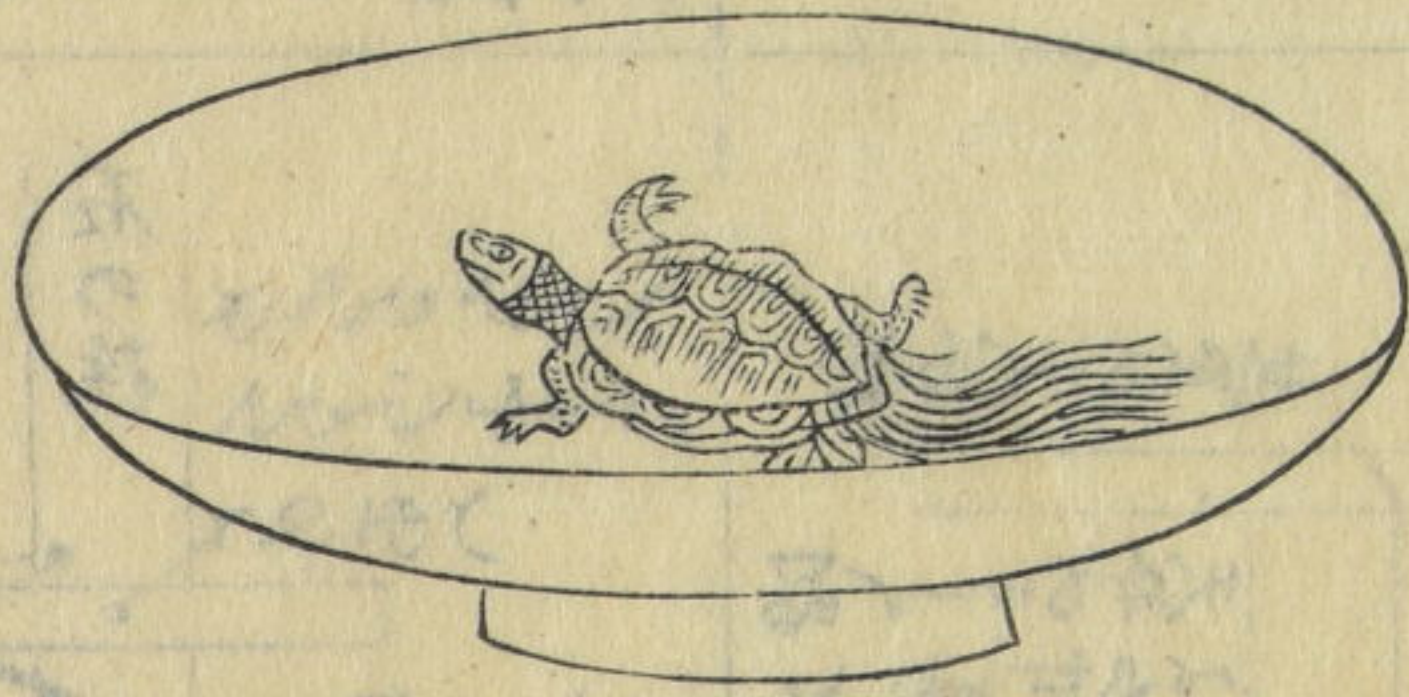
弾ねおとあとのいおてとあるゆへどよく
 鼓をうらあり
 鯨のあきおて作るこきおて常お上へ弾ねよて
 けおのうとらぬやうおつくる
 この如と二の輪の右面のいおてをいよらあり
 いとけらき鼓をうらあり

右より見る図



この二の輪の左面のいおてをいよらあり
 この如と二の輪の右面のいおてをいよらあり
 いとけらき鼓をうらあり
 この如と二の輪の右面のいおてをいよらあり
 いとけらき鼓をうらあり
 必要おてうらあり

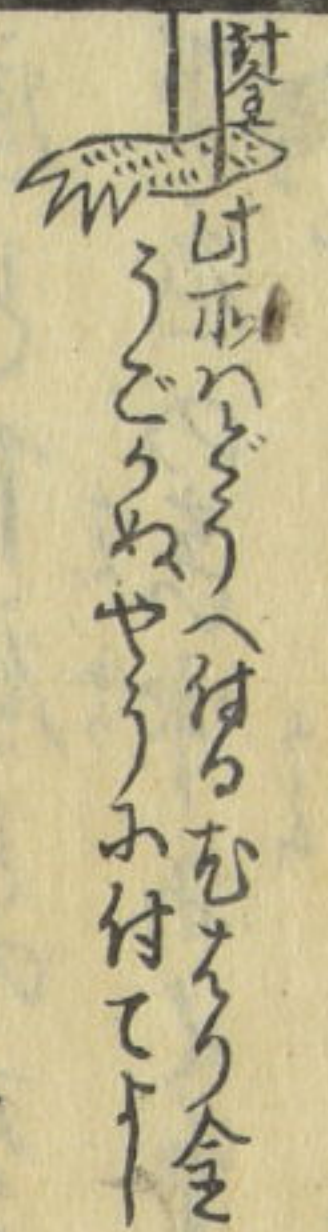
揺盃



け盃二重底ありて上底の底
 どもありその下小亀ありて平
 常ハ盃をよみとりてもけり
 うごけは酒をうくまへ顔あり
 小も足皆動揺するありゆ
 こまを揺盃と名づけしは但左
 のい
 是ハ龜のちさ一寸やとよせんと思
 そまやどのさう酒一ふぢいどもを
 かく切まのしぬまこね二重底を
 揺盃一ニ寸程小切まのしぬま
 舟のいども程小切まのしぬま

うのむいどもろのふちへ漆小小麦の粉を移り守せしる
 めのをりりて表よりそを付べしぬ又白もけ緒の指
 候一程ふりりぬまを少く被指のありて漆をほけ
 を付付べしぬけ緒のしらうらうらうごらあてぬま
 を色好みぬま随うて一盃全体ハ其の如くう
 あてぬまは藤僧をとりて一木をて上底の仕
 廻りけ次ハ下底をふ内ぐるまの仕廻り
 下底ハその仕廻り一盃の全体を漆くして上
 底と下底との間を漆くと備地を明てより
 下底の真中より漆をて上底の腹をさしぬま
 ぬまの腹の上のびいとらさうらぬまやうふま
 ぬまのふもとをて人の脚氣あてぬま足皆動くる

その初く仕廻りの朋と既の足踏ぶらみ判一針金まで
朋狎へほり下げてよりそつらさげやうの



けしとくは足一撲小穴をあけ
そつら糸をさしよへおひけその

くーの朋へさうつけてより右の撲穴へあらく自由
初くやうするがより

既も是ふ同一但一既の少先足の上るやうに

は是の少先の下るやうにさぶー何れも狎へ少もよさ

らぬやうにほり下くべし少あても狎へあつて入

はふとりてうごねを扱又より金をさる穴へさの分

上てめけ穴のよつひ緩きさうあつてさく長さを

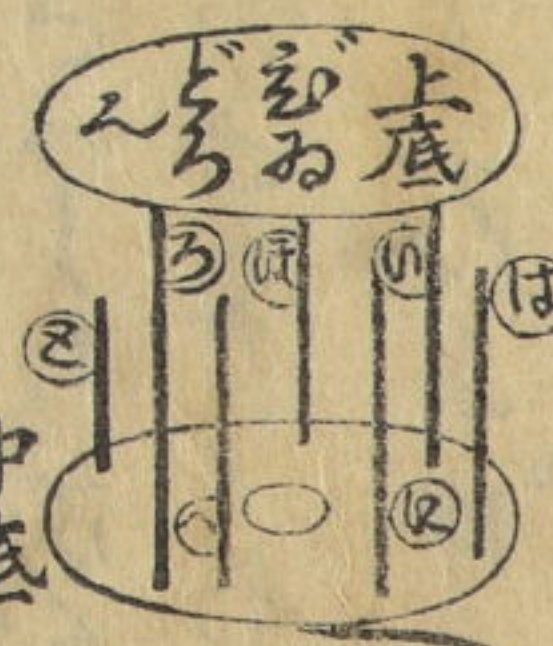
うごねのほり下くべし

右の足は龜の御きの仕廻りゆれどもそのほりを
うごねのほり下くべし

左の足は

うごね板おて如けのを制し中底とらうく
中ふ小き穴を明くあり惣括返し大狎

上の足はと同一これを龜御さし
おすおさしをさるありけ中底上底上下一ふ小狎
龜のうらも足を或へさるせ或へさるさを留



けし金辭の仕廻り先①②③二本の柱
を以上底中底を一つふえり合せて
るありむけ柱へ何おあてもよ

さうな、少く今一本をうてえ、本ふけ、二本あて、
 かこまりあし、扱又湯のどく下底ふて、金
 てあふ申底をさしあげて、長丸④の柱あて、首
 下より推し⑤の柱あて、右の足⑥あて、右の足⑦あて
 へ左の足⑧あて、右の足⑨あて、皆下より推し、中
 くと、柱あて、扱、湯をうく、さ、そのま、さ、あ、
 上より推し、首、足、皆自由、初くる、是、乃
 推し、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、
 大、金、あ、さ、さ、い、金、あて、紙、の、う、さ、あ、作、ら、
 強、く、し、て、湯、の、力、あて、下、り、と、あ、
 推し、と、能、は、ど、皆、鐵、く、知、ら、
 大、金、あ、中、底、の、ま、申、推し、や、う、あ、
 中、底、の、ま、申、推し、と、能、は、ど、依、て、さ、あ、
 あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、
 あて、依、り、も、よ、
 上、底、乃、筋、の、あ、い、湯、あて、ゆ、り、て、あ、
 知、ら、
 自由、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、
 も、亦、底、を、あ、あ、さ、あ、
 下、ら、
 く、済、な、さ、い、彼、あ、い、ど、く、湯、の、力、あ、さ、あ、
 せ、ま、く、湯、な、さ、い、湯、の、力、あ、さ、あ、

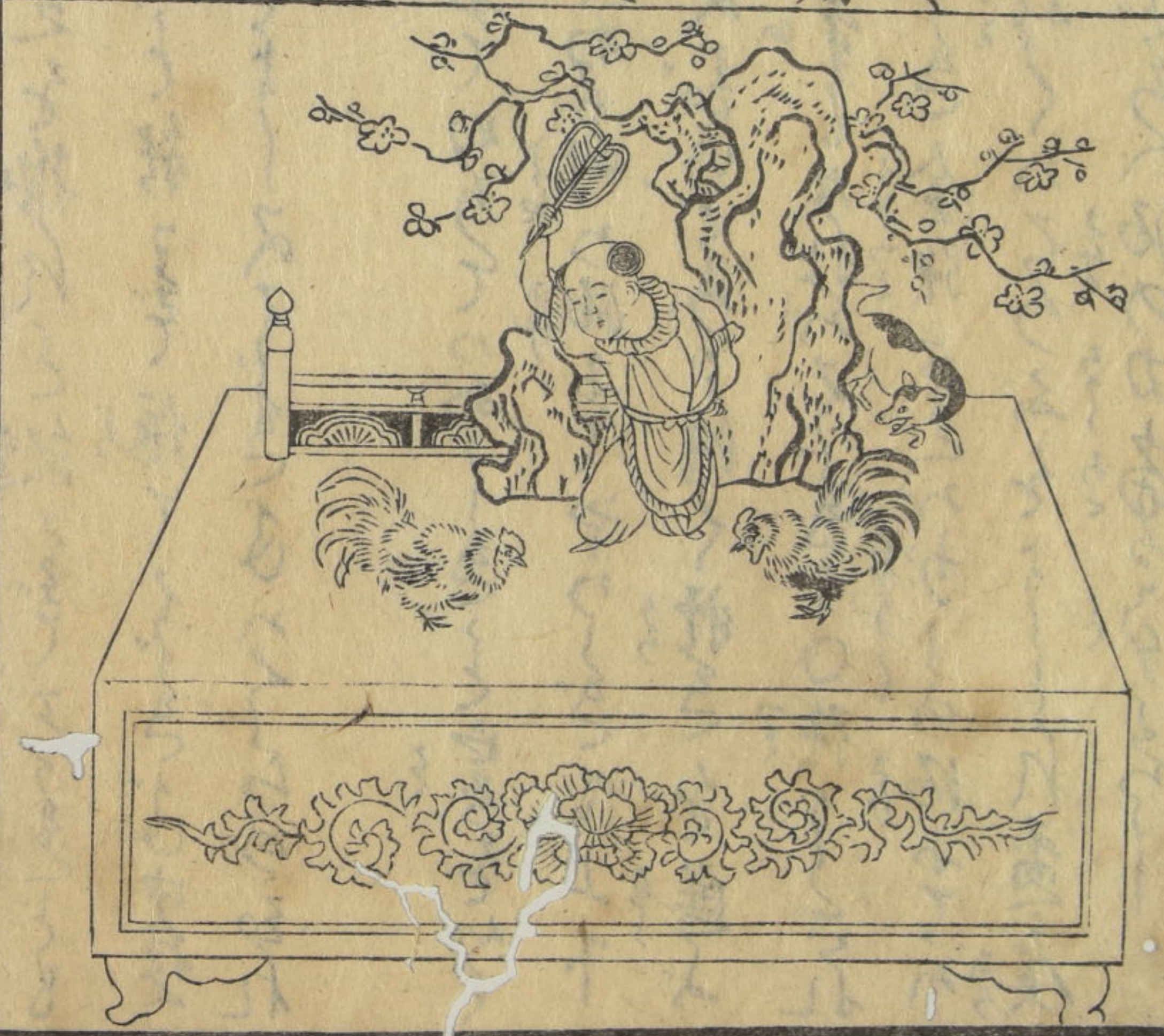
物、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、
 中、底、の、ま、申、推し、と、能、は、ど、依、て、さ、あ、
 あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、
 あて、依、り、も、よ、
 上、底、乃、筋、の、あ、い、湯、あて、ゆ、り、て、あ、
 知、ら、
 自由、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、さ、あ、
 も、亦、底、を、あ、あ、さ、あ、
 下、ら、
 く、済、な、さ、い、彼、あ、い、ど、く、湯、の、力、あ、さ、あ、
 せ、ま、く、湯、な、さ、い、湯、の、力、あ、さ、あ、

足を推し極め余程内へ下せしめて仕組むるなり

圖鶏

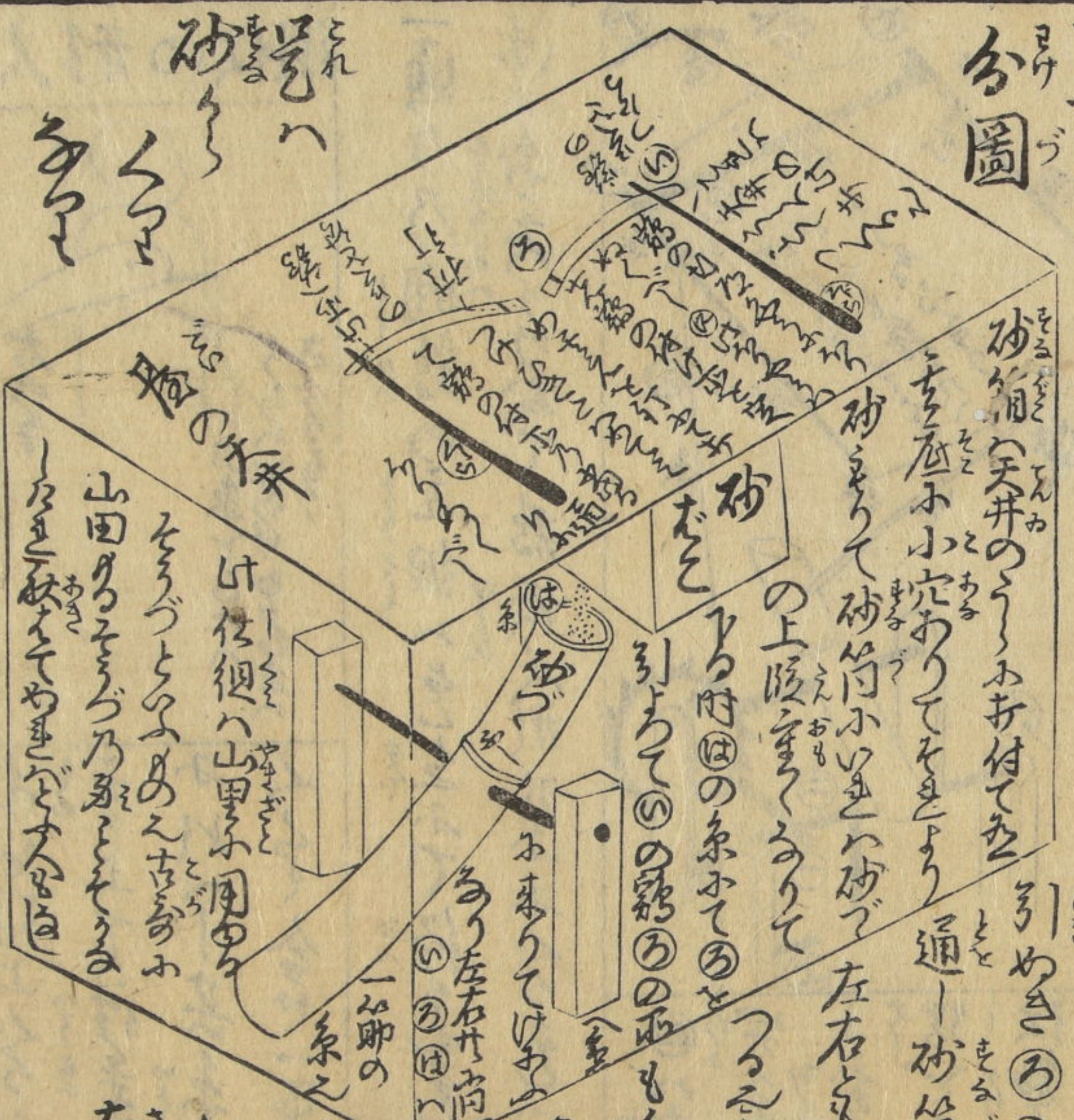
是ハ左ノ乃 磁合ニ
くろりあり童子 磁合ノ
をどし小入まきる 座固
とよまき磁合又左右へ
らくらき 如け磁合ニ
度小乃 乃時座乃 定る
大くけりおまき 磁合ニ
適小左右へ 飛去まき 童子
子也

片小立さなり



肉かくき

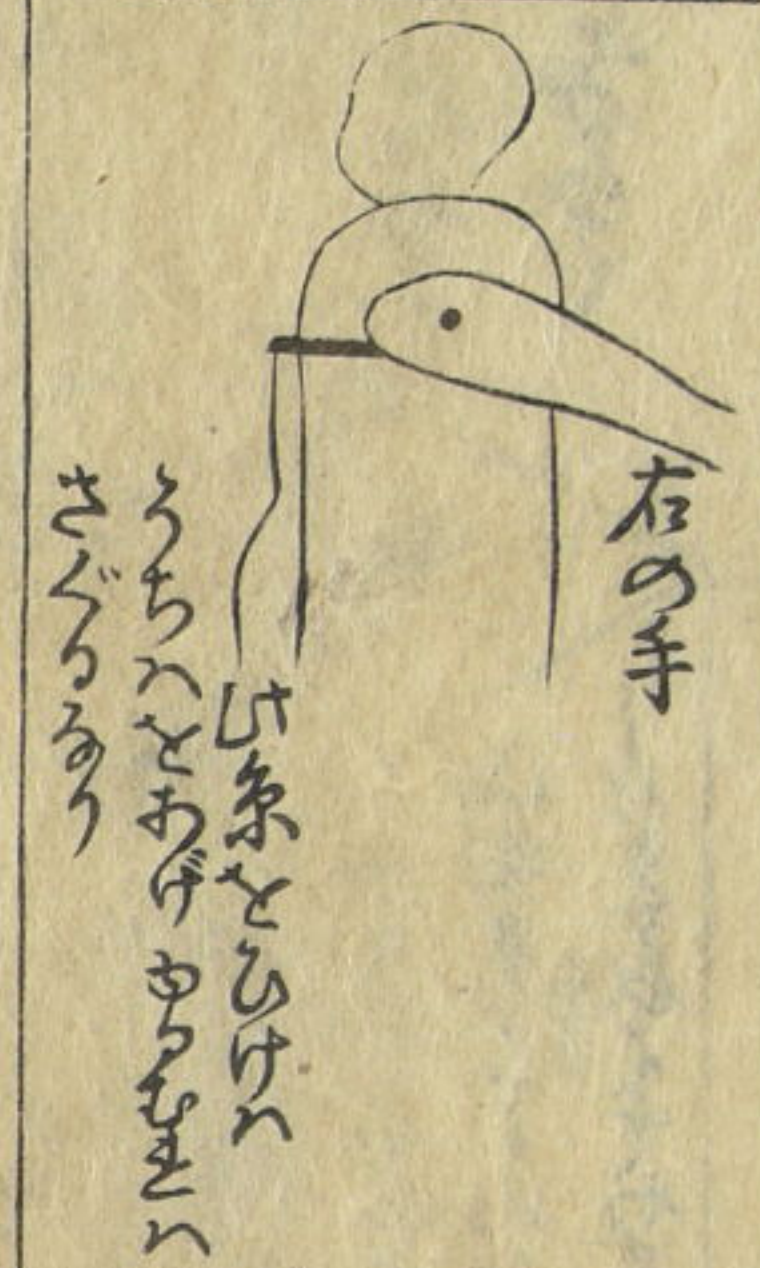
分圖



これ
砂
くろり
あり

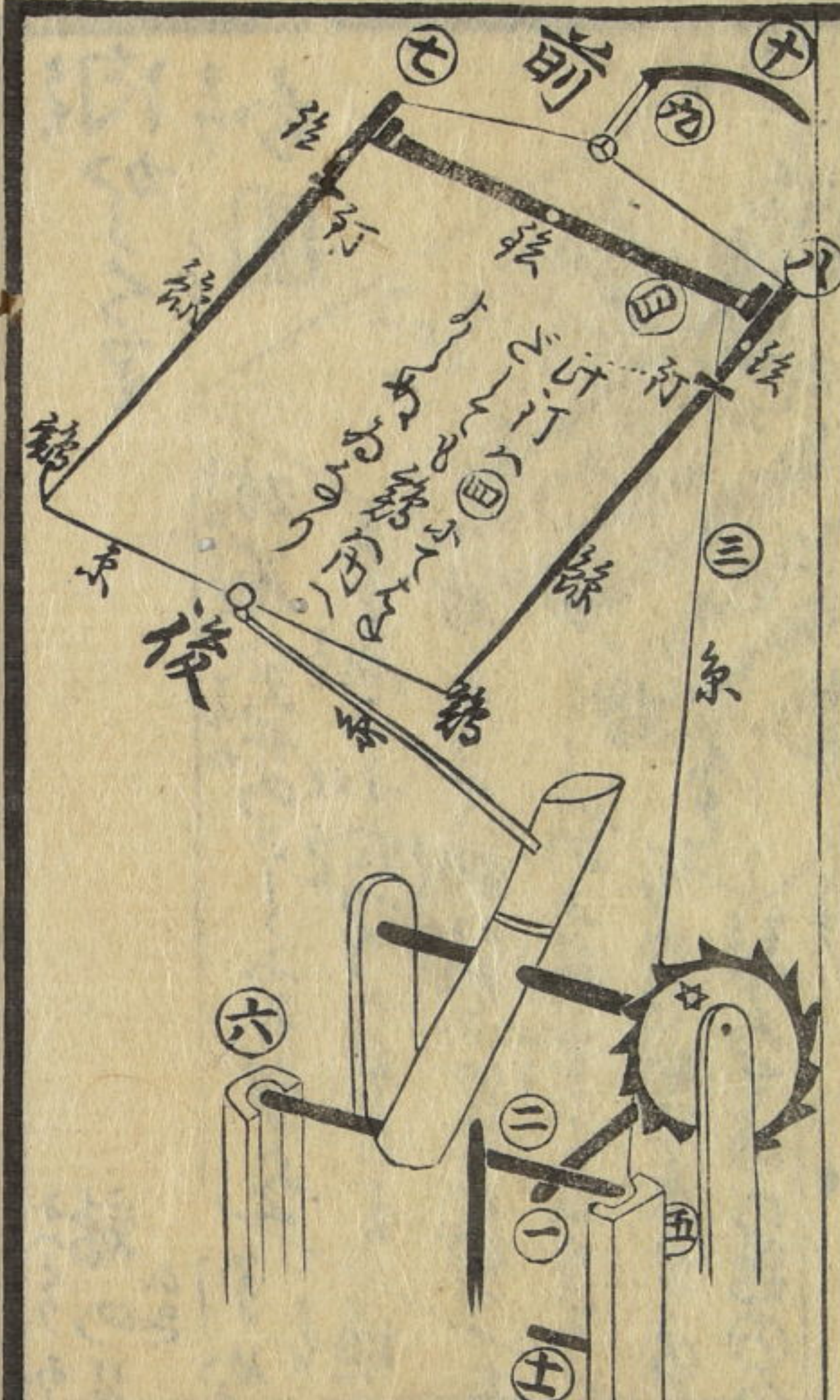
鶏の足は⑤の亦小系を付け上へ
引めき⑥の杭釘乃亦より中引
通一砂筒乃④の亦より付え
左右も亦同人形④の亦も立
つるを指西の座固座の具下
と磁合ニ第一つありて
④の亦へ括り付るあり
こま小より磁合
人形と同時小より
くろりを人形仕組
左のどく

人形の仕組



糸と引上げる糸と付けたる糸
を上下に引来し衣を着せしむ
みれば其糸の鶏の糸とつりあ
はるる合せ二糸小引上げ

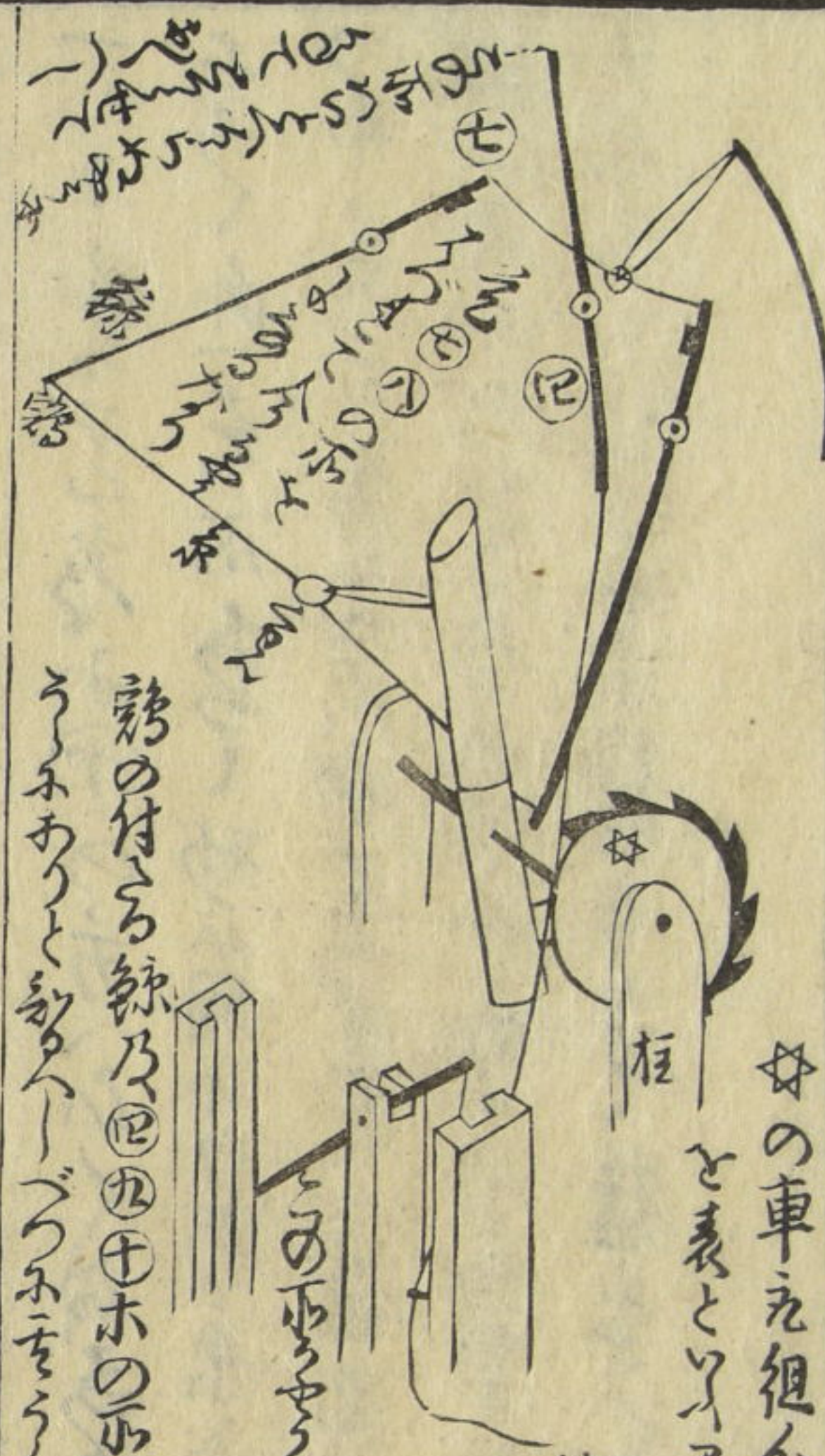
一通り乃爾鶏の糸組の仕組を
流しお太くけかて鶏及人形
の糸組の仕組を
一通り乃爾鶏の糸組の仕組を
流しお太くけかて鶏及人形
の糸組の仕組を



④の糸と付せ
仕組の時小の先④小して⑦の
とよりおし糸糸と⑤の行

今け次小③と如繋ぐる由人小③とるの上④と引たるを
鶏及人形のよた小砂箱に砂漏りて砂の同入る
おとくともあそとる一①の車のころ小打付けてあり故
の車ゆくまハ①もた小引りて下よる③とるの上よる小よる
②小て③への糸を引き③小て④と引終小③ハ⑤⑥支方の
りたる所とおつるあり其時④も亦たらまて落るありやう
小佐所のうアとる所ことごとく同時おるまハ⑦⑧⑨の少
一つ小多るを小⑩の方へひく故あり是鶏犬小をまて
をく途去所あり砂の同の口乃糸小て出小鶏乃方引き
つめとて居る由④をまてと鶏をくひくくゆ然も是
砂の同の志しある小③小多るなる所依て今③④同時おる
まらんを引たる所ゆりて鶏をく完くあり程

次の図のよ



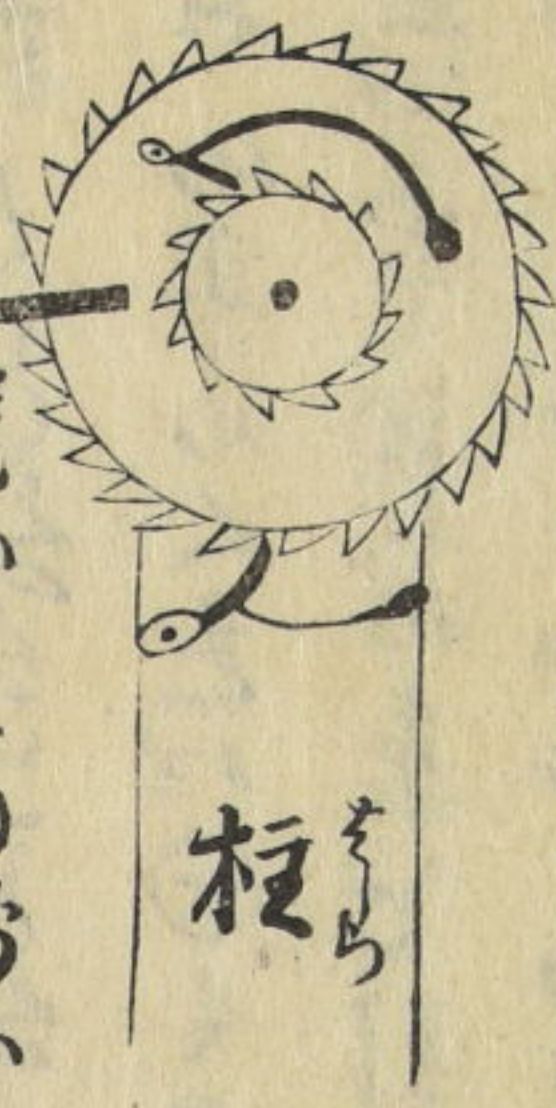
車よりより正面より見る図

☆の車を組分る木左の通り今付て見ると
と表と裏と入るわねとさういふ後ふたつ

けりハけ④の釘ハ定をわけ
さうとわしてより

勢の付たる鉄及④⑤⑥の木の板をあつてどく皆巻の天井の
うへあつてと砂入へてつとせううりりなる図におさげ

砂は筒小砂波てうとむくとれ
大輪小輪は皆升あめくると小砂と
吐き系のとさうする時ハ砂筒の心と
小輪と一匹小筒つて大輪あつて
どろ小砂筒能くとれ①②③
をくの上るあり機分る小詳あり

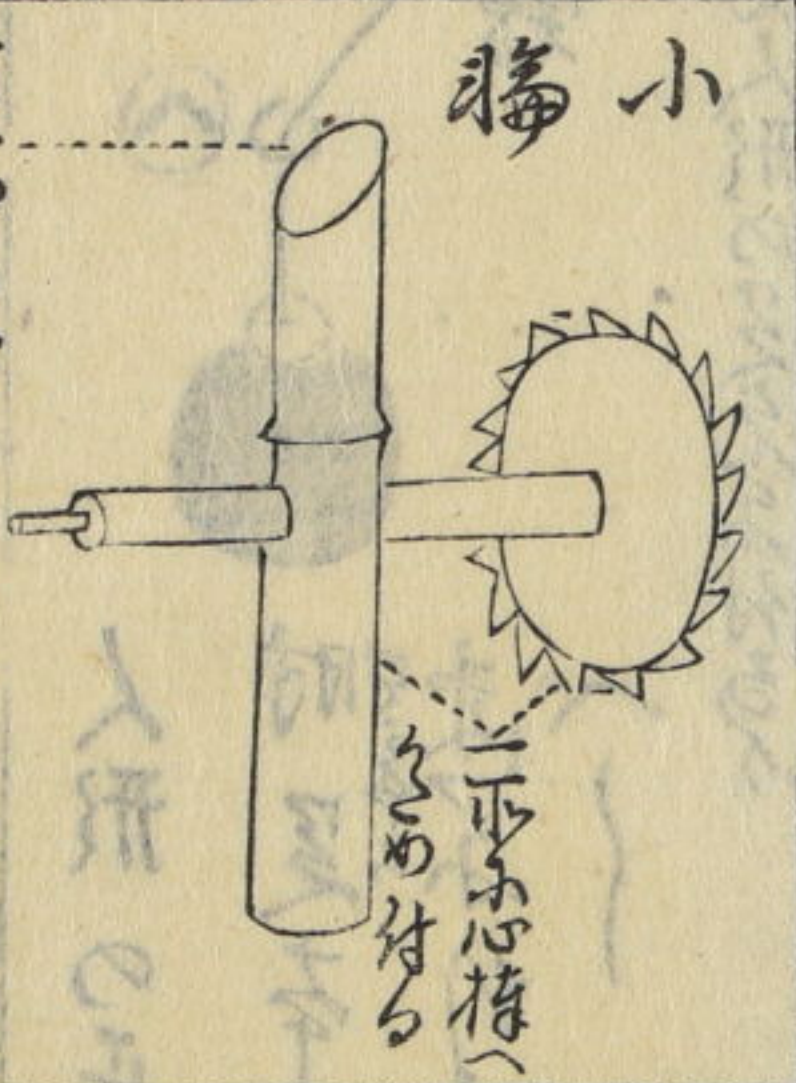


①
さうとむくとれ
②
さうとむくとれ
③
さうとむくとれ

分圖 此の通りと斜め見
とるあり



大輪
け車砂筒小砂とちて
かむく時小車と一匹
めくるを理ハ小輪乃
齒小からぬあり

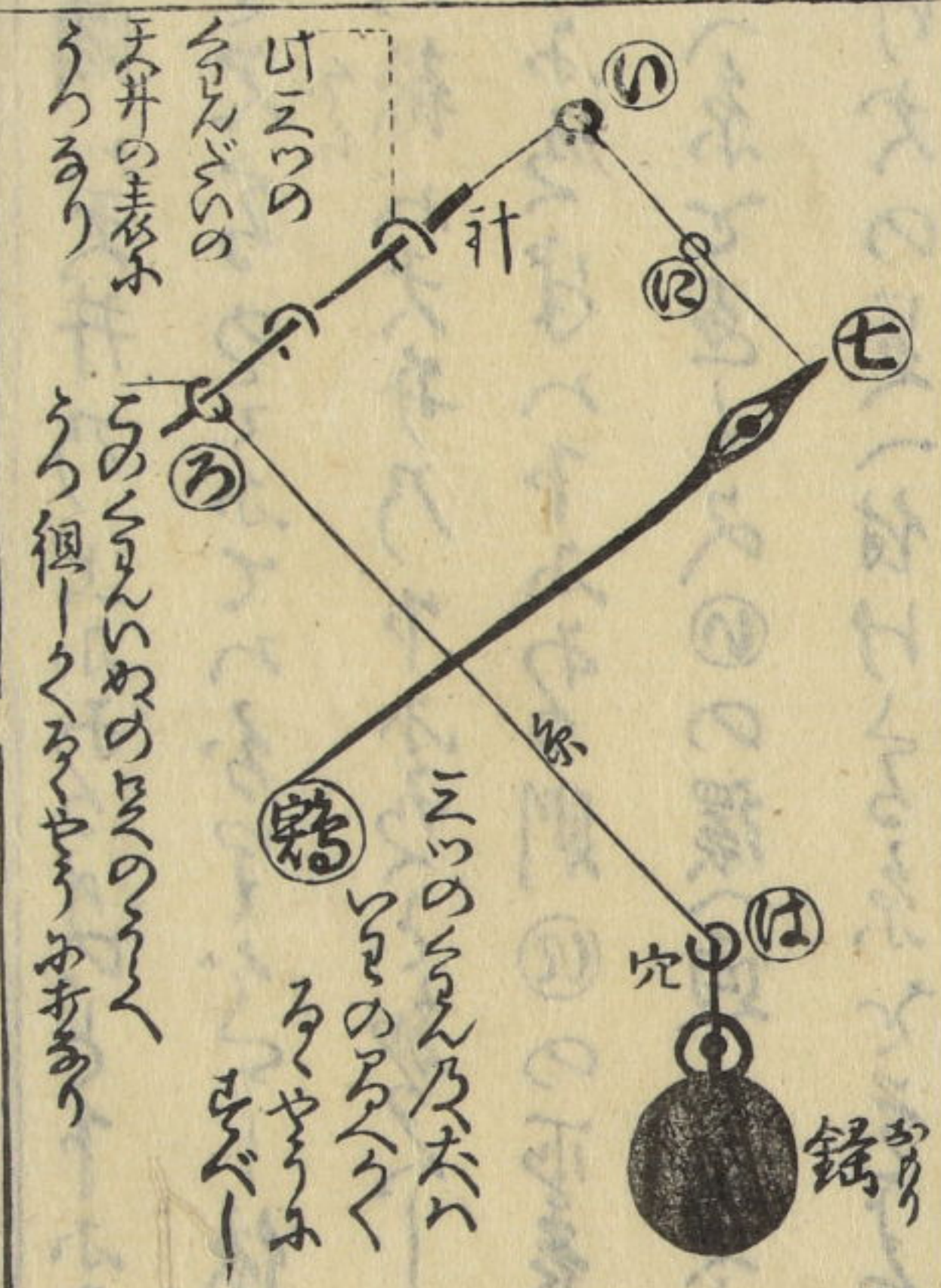


小輪
けり小砂とちてさむけれ
輪ハ大輪とちてさむ
砂をてえへる時大輪ハ
さむ



柱
砂筒系へうの時大輪わく
らぬのハけ機ハある
あり砂筒の大小は定
むと小とさうハ力ハ
法と引る砂ハ大とさ
きハ砂余針用色ハ板ハ

大を組仕る



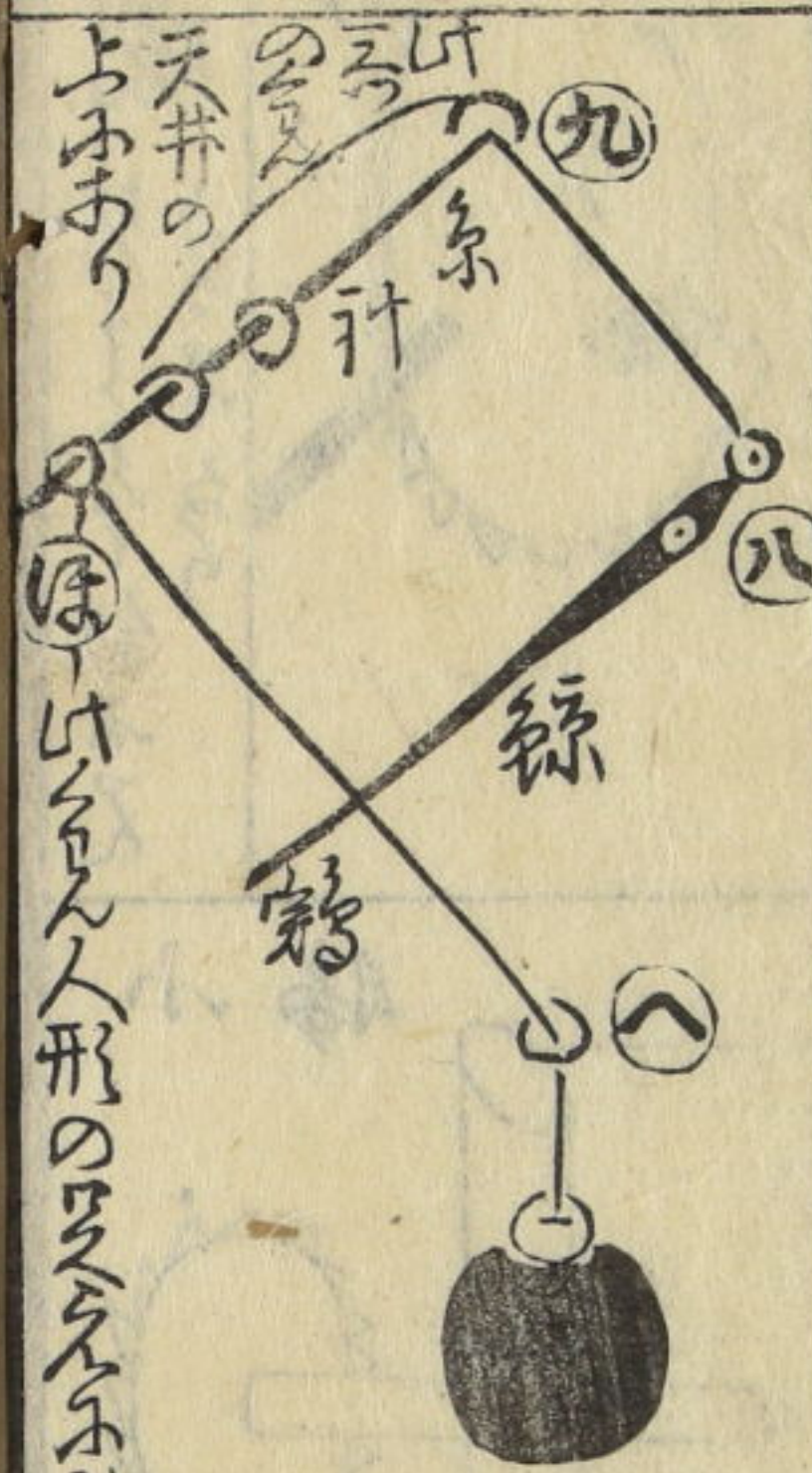
①
けり
②
けり
③
けり
④
けり
⑤
けり
⑥
けり
⑦
けり

結をくさうく時④ハ
⑦の正引る⑥の針ハ
員をわけるとさうして
大ハ
小ハの正引るさう
これ小ありりて下へ引
て

け圖へ天井乃上小あるものと下小あるものと一糸を以て申す
 袋と名づるものにておてのふすまごと一依て文と加て解ふ解つた
 七の糸へ天井乃下小あると初る一七より⑥へ引くる糸へは
 へ上小あるは下小ある則④の正表より定ま七の穴へ斜小あり
 是へ糸と通一又⑤の環へ通一針へとふれあり又⑥の正へ定ま
 明け犬の足へ付けくる糸とをよ下へ通一針ありありを
 付一糸上げ文と引合せ袋とえて初て取あり

⑥の穴へ犬の糸の踏合る穴のちるやうお明けす

人形犬小舟仕組



人形の足やうのちわをよ
 時足本とす寸丈小舟の時
 束ふりやうお足えとこむ
 べ

犬おて懸てく時⑧より④へ引くる糸⑧小引くる糸⑧の
 針人形の足をわけて人形へ糸を⑩の正へ通る糸を
 け下へありあり引くるけ圖も前とほどく天井乃上
 下小あるものと下小あるものと一糸を以て申す
 小あり一糸のちる及糸へ通上小あり⑧の穴へ天井穴
 とわけ④へ付くる糸と下よりと糸へ上へとり④のちる
 ちるを又針へさすなると故糸⑧の糸⑨の糸を針ひり
 きて人形の足をぬらる由人形おりてちるきて⑩の正
 へ糸を針ひりて先砂袋乃一底小した定をわけますり
 砂を漏らしてそまの用とるさむるありけ小穴あり
 ととちるの塞きこむき用とるは時袋乃外より引くる
 あり又砂のおつる糸へ引おりてさむりくるる砂を交

さいの天井の上小窓をわけかきこまきより砂をこまきを入るあり

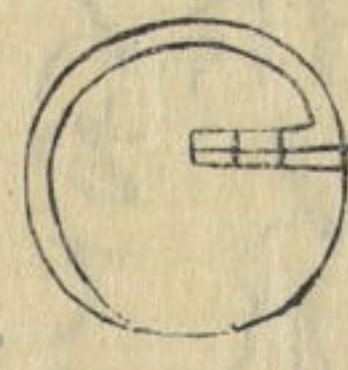
人形足仕の組



組

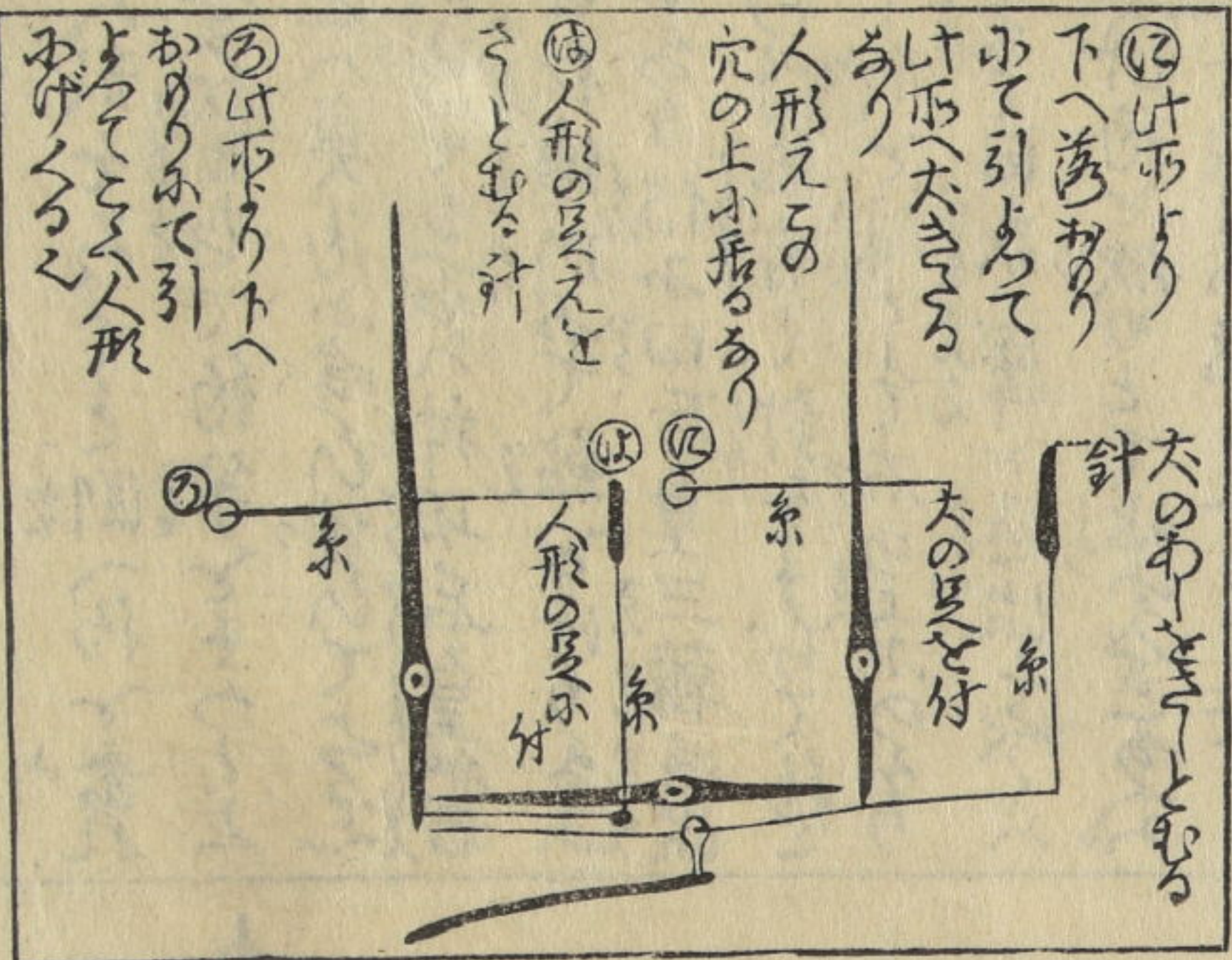
但し系めて引仕組あり
大木取きて逃がす時引系めて引あり
組一付付けたる方へむ糸の掛け
系めて人形掛お逃るありお付一
移る時へ急向ふるりておるあり

うやう小足奉へ板を付けせり乃よきやう小足一を足奉のまわりにて急小引てもうらぬやうおはべり移し板へ衣移おてうらぬ一板又よと引糸とも引板へ上よりぬき色に一引板のうらとへ



うやう小足へ板をさしおたせる(彼人形組)うけ止むる計をさしへ

基の上諸織り方の概圖



① 針
② 大の足と付
③ 糸
④ 大の足と付
⑤ 糸
⑥ 糸
⑦ 糸
⑧ 糸
⑨ 糸
⑩ 糸
⑪ 糸
⑫ 糸
⑬ 糸
⑭ 糸
⑮ 糸
⑯ 糸
⑰ 糸
⑱ 糸
⑲ 糸
⑳ 糸
㉑ 糸
㉒ 糸
㉓ 糸
㉔ 糸
㉕ 糸
㉖ 糸
㉗ 糸
㉘ 糸
㉙ 糸
㉚ 糸
㉛ 糸
㉜ 糸
㉝ 糸
㉞ 糸
㉟ 糸
㊱ 糸
㊲ 糸
㊳ 糸
㊴ 糸
㊵ 糸
㊶ 糸
㊷ 糸
㊸ 糸
㊹ 糸
㊺ 糸

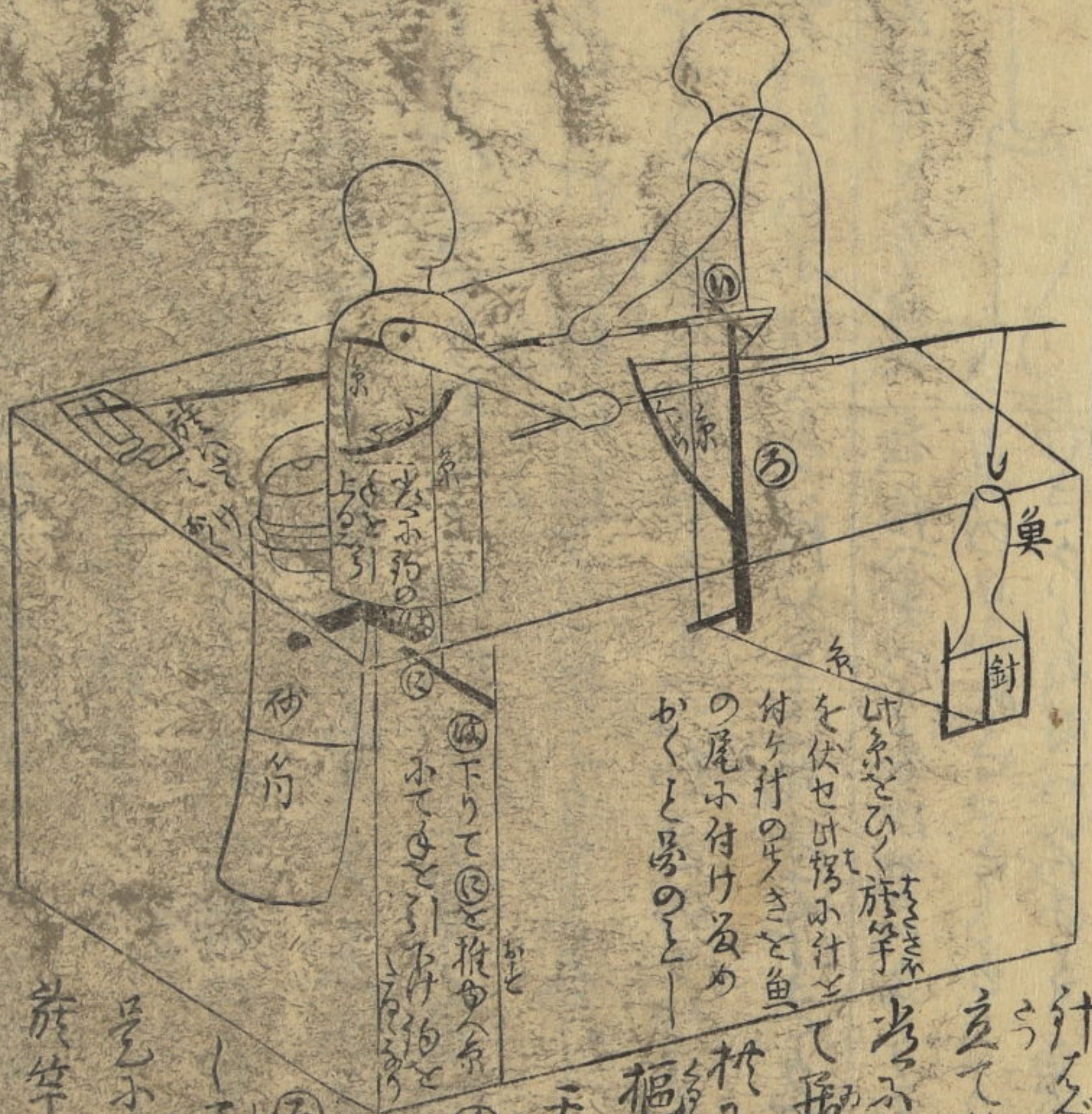
大及人形のたきまきの次方をもく
の全圖にて詳し解しといへとも今
法物え掛(おる)移り 西を詳し記し
ておの全圖と実おれ組一引板の
表し有裏おあるおしへ全圖の条下
お詳おはらてらふ畧す移り全圖の条
と又合して明白あり巻の内のお
房へ畧し移り全圖と実合せお明し
移りお寄て圖お時へ毛をさしきて
時へ毛を伏せる乃仕組わりは
籍の足巻上とさきりて移り全圖
お依ておあるとありおるおも
仕組おげくして紙上おつくし
一こまきおよしてこれをアヤクす
移り製造する人の意おある。

魚釣人形

人形をろくくと測へ釣をなれ
 入之替ひて釣竿とせつと上
 是ハ魚釣人形の作りて上之
 け國々々へ神功后皇妃若
 西松浦川にて鮎を釣りあふ
 不ありは小田后皇三韓退治
 乃所志有針をまけて釣と
 版と脚とて石の上のなり
 折て日赤三韓と退治せん
 魚け釣と飲めとて水入すも
 鮎をひきあひ今とまこと
 くりふえくちみ魚釣人形とて
 ハ例多し魚釣三韓退治ハ
 誰とことゝ魚上より旗も上げ



内かくるの也圖



①糸をひきし
 係を伏せし
 付す付のすきと魚
 の尾ふ付けぬめ
 かくし果のし

魚釣人形つて上之ハ屋のひきとめる
 針をひきし係をひきしは釣竿
 立て竿は釣竿ありとるありは
 是ハ鮎乃ひきしつて釣竿のふき
 て釣籠あり④の打り果上げ
 竹小あり是釣竿と死伏する
 櫃あり依て釣竿(櫃)の
 木支揚と釣籠の釣竿の
 のハ釣竿の死るやうあり
 かりぬく
 ①の柱(櫃)の座より木
 一通に之をハ釣竿柱とて
 是ハ釣籠のふきとるやうあり
 釣竿のふきとるやうあり
 釣籠のふきとるやうあり
 釣籠のふきとるやうあり

分圖

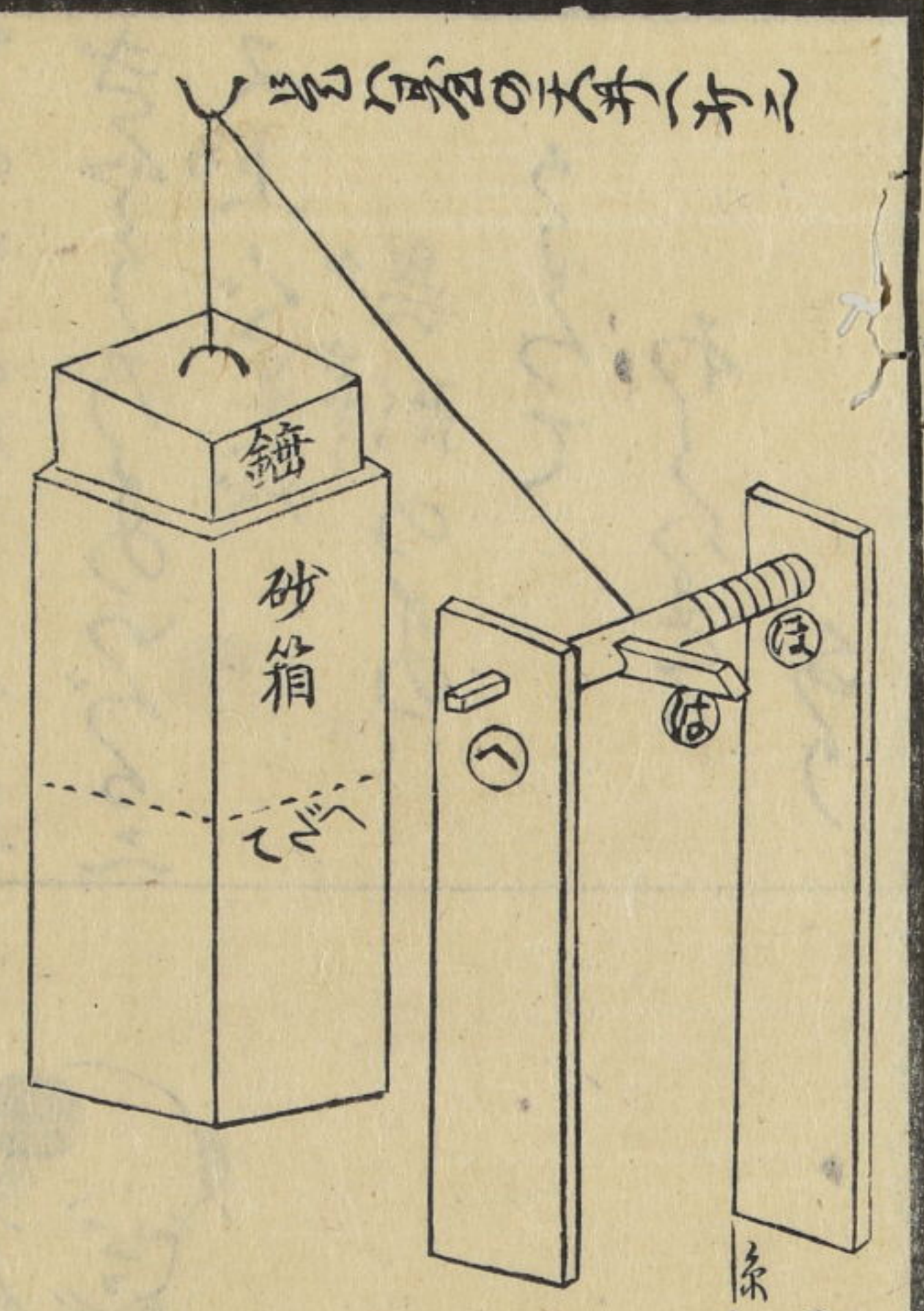
熱國中にて明白なるものへ再びおさまで只熱
号中にて分朋をさぐるもの乃こを解するとなのど

○釣(魚)れかてさる次才

釣の糸八個きてさるさう又ハ線のをれを細くさるさうとす
のうらぬをさるさう又よとさる糸小ても流く深めてさあ時
よりろくろをさるさうへよとさる人時釣の向うりて
きてれ仕組の通り真ふらさるさう一魚りさるさうと入る
とよて板(さき)をさるさうむきのうらさるさうさう一ゆき
と引糸小付る計をさる尾小付るさうけさくこ 前
人形物さる仕組 洋あり



砂がらるたのど
取釣へ真のうら次才のさうお釣のまわりさるさうたのとさ
真のうらあさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
むきうらあさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ろくろをさるさう中(釣)の糸付のさるさうさうさうさうさうさう



① 砂漏る小随て流る
② 揺る小随て③おさる
④ 揺る小随て⑤おさる
⑥ 揺る小随て⑦おさる
⑧ 揺る小随て⑨おさる
⑩ 揺る小随て⑪おさる
⑫ 揺る小随て⑬おさる
⑭ 揺る小随て⑮おさる
⑯ 揺る小随て⑰おさる
⑰ 揺る小随て⑱おさる
⑱ 揺る小随て⑳おさる
⑳ 揺る小随て㉑おさる
㉑ 揺る小随て㉒おさる
㉒ 揺る小随て㉓おさる
㉓ 揺る小随て㉔おさる
㉔ 揺る小随て㉕おさる
㉕ 揺る小随て㉖おさる
㉖ 揺る小随て㉗おさる
㉗ 揺る小随て㉘おさる
㉘ 揺る小随て㉙おさる
㉙ 揺る小随て㉚おさる
㉚ 揺る小随て㉛おさる
㉛ 揺る小随て㉜おさる
㉜ 揺る小随て㉝おさる
㉝ 揺る小随て㉞おさる
㉞ 揺る小随て㉟おさる
㉟ 揺る小随て㊱おさる
㊱ 揺る小随て㊲おさる
㊲ 揺る小随て㊳おさる
㊳ 揺る小随て㊴おさる
㊴ 揺る小随て㊵おさる
㊵ 揺る小随て㊶おさる
㊶ 揺る小随て㊷おさる
㊷ 揺る小随て㊸おさる
㊸ 揺る小随て㊹おさる
㊹ 揺る小随て㊺おさる

取初仕組の時ハ先①の亦ハ後をさるさうおさるさうさうさうさうさう
お一運さるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうと砂の上おさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
へてさおわさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
おおてさるとさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
お仕上へ
○先初めさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
釣竿をさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

全躰之圖

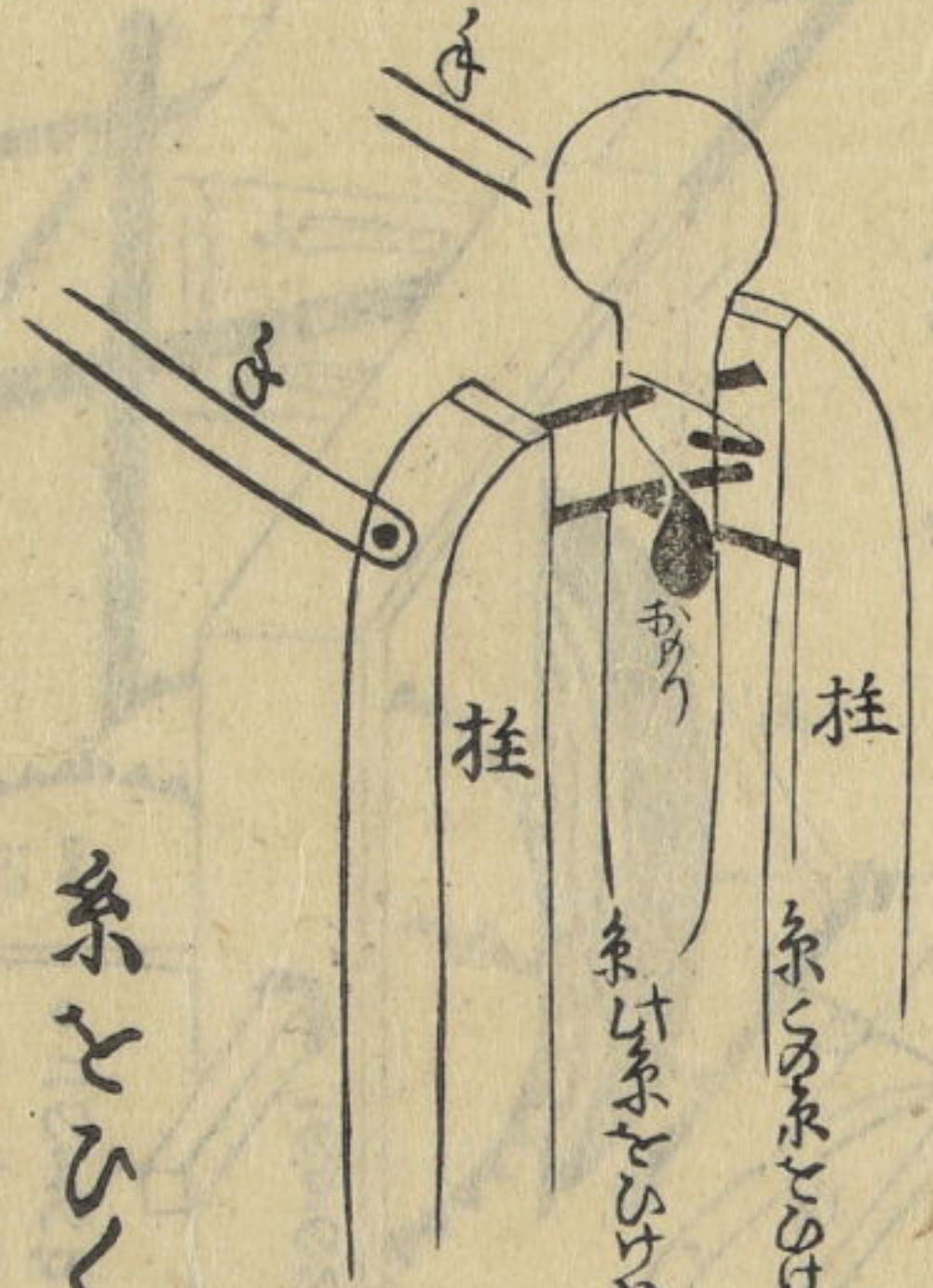
是せんまのくさくさあり
 是乃うろろあねぢ
 わりそまじゆねぢ
 へん形伏せてある外
 とあぶまこバ下よと異
 ぎやう乃あつらこ
 又上ぐま
 異形のあ
 うらつて
 わらまる
 あり

品玉人形



同裸之圖

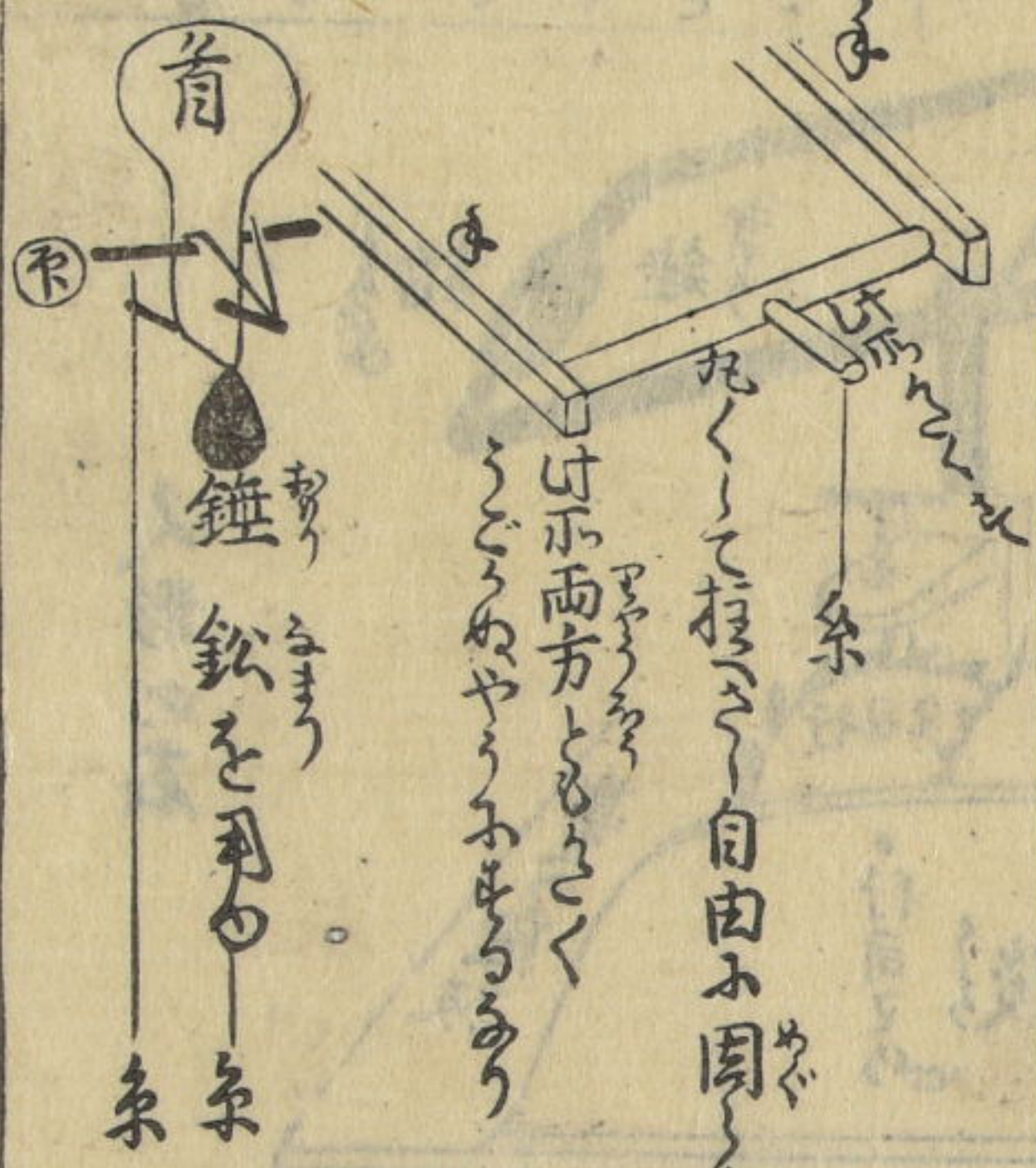
自後斜見之圖



系とひくからく
 三節乃系と一つあつた
 ひけの同時よとあけ
 うらとさるるえ
 柱
 系

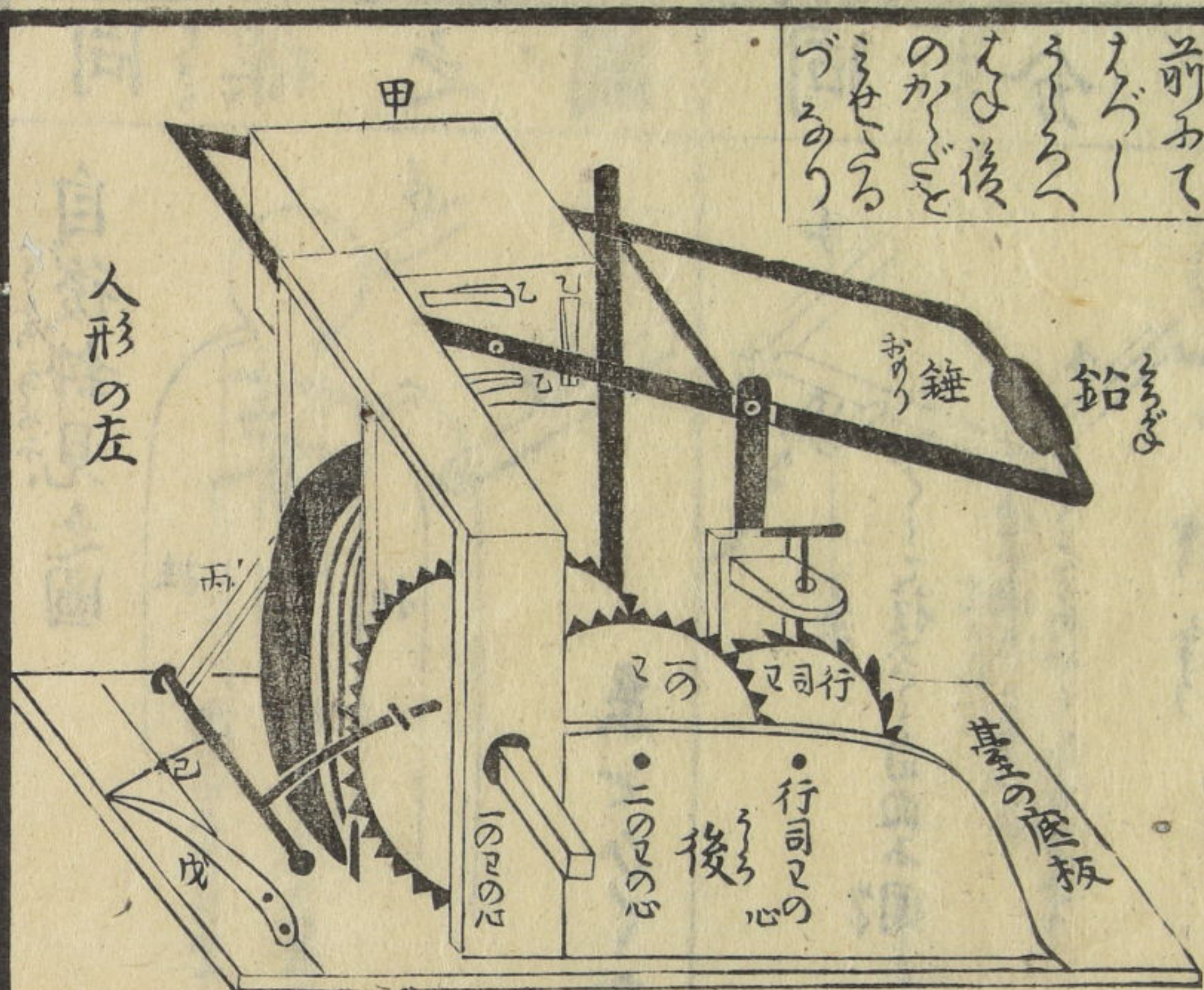
手と上ると頭と下ると
 同であり則ち外と揚
 ぐれへ異形のおわらそ
 れを人形もまの頭とさ
 げてうあづこいとさ
 かな

同分づ圖



系とひくからく
 三節乃系と一つあつた
 ひけの同時よとあけ
 うらとさるるえ
 柱
 系

人形の
肩衣と
前あて
えらう
えらう
えらう
のうしろ
をかき
まを
づらり

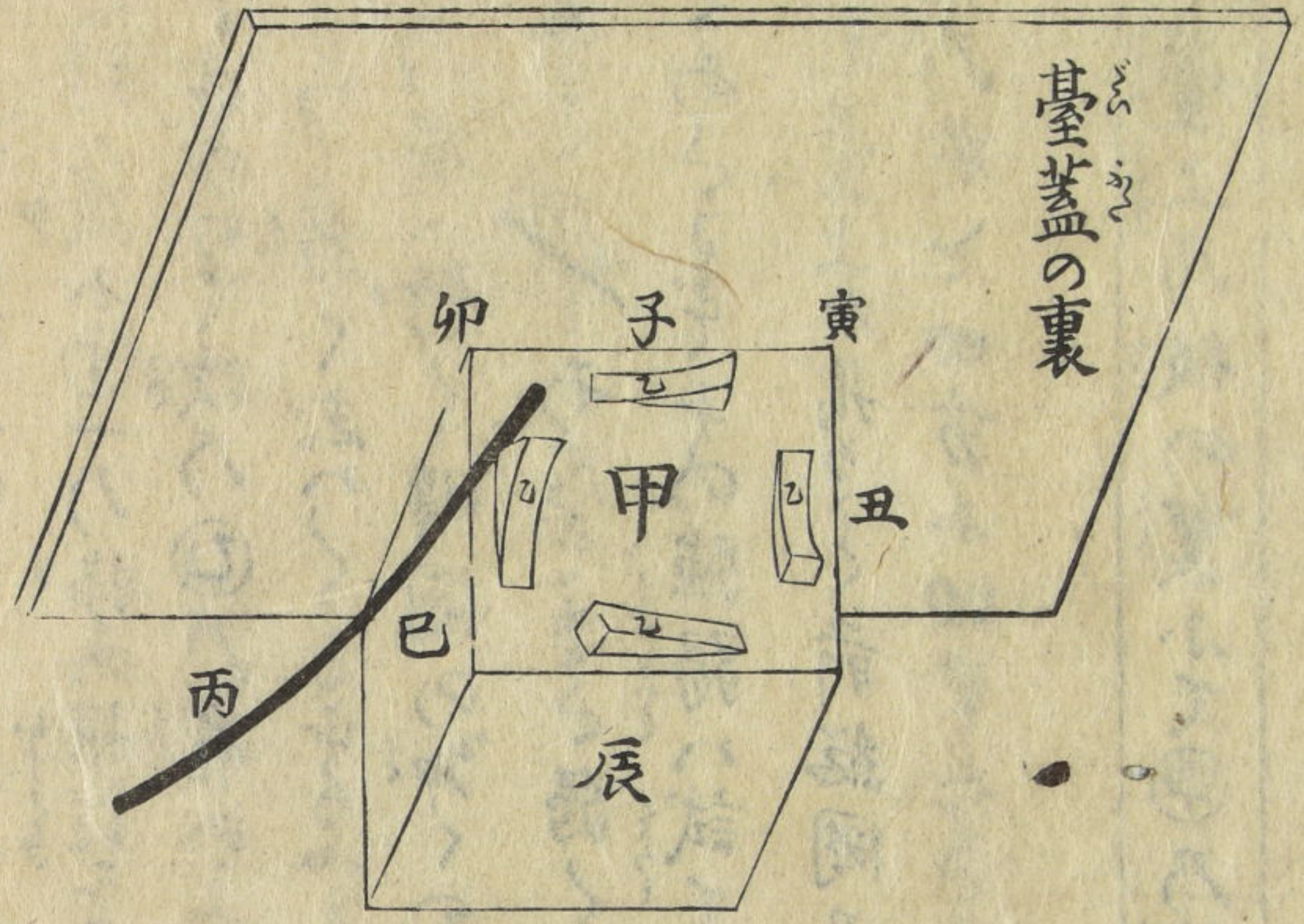


①の賽形お指しとる相
からつけ四面おりの品
と名づけとるいろく乃
化物なりてとるるぐ
づらなりとるる今
しやうめんお図るる氣
を画くぐ②と名づけ
らるりの四つあり③
おせば④甲めづら
化物易いおるる⑤を
推しおの二乃務めあ
まはら一乃務めづら

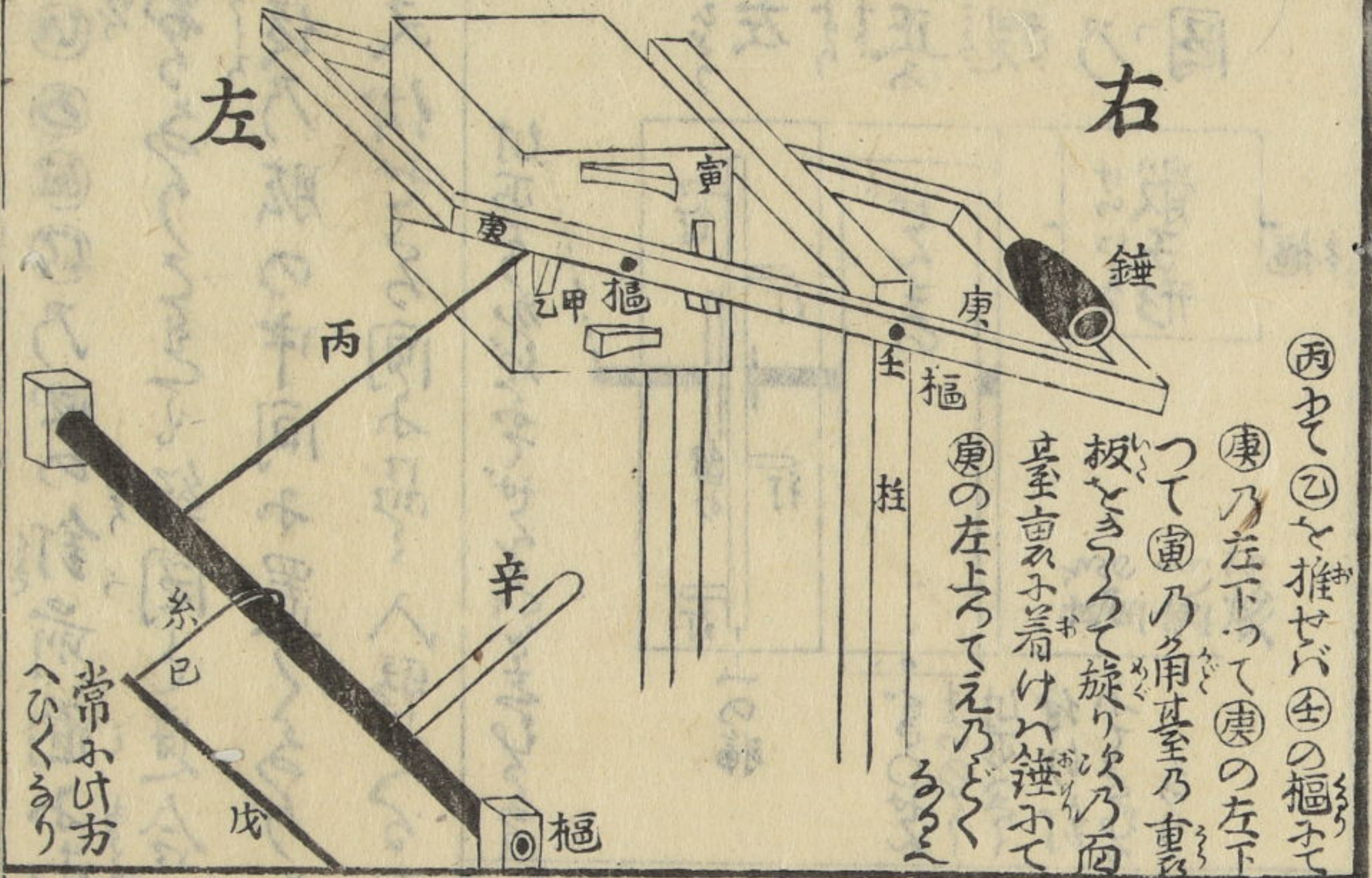
①を推し故に②もたおくら③④⑤に常にお⑥乃糸を以
⑦引之故に⑧一乃務の推釘を離れれ直ふさびく⑨⑩
おたおわけて次乃⑪乃肩の上のらあり但し⑫のぬれ
をりて弱くおはくととるやうお作りあり強過ぶと次の
⑬乃肩へ行く時⑭の如く⑮の背おて止まる其の肩へ
上ると
あてはぶく弱くめづらば⑯を推し
とあてはぶくその強弱を試てとるべし

人形臺上お長くと前総図乃如しと臺上の板人形乃
膝乃前と四方お切すめさす如く化物づらあり

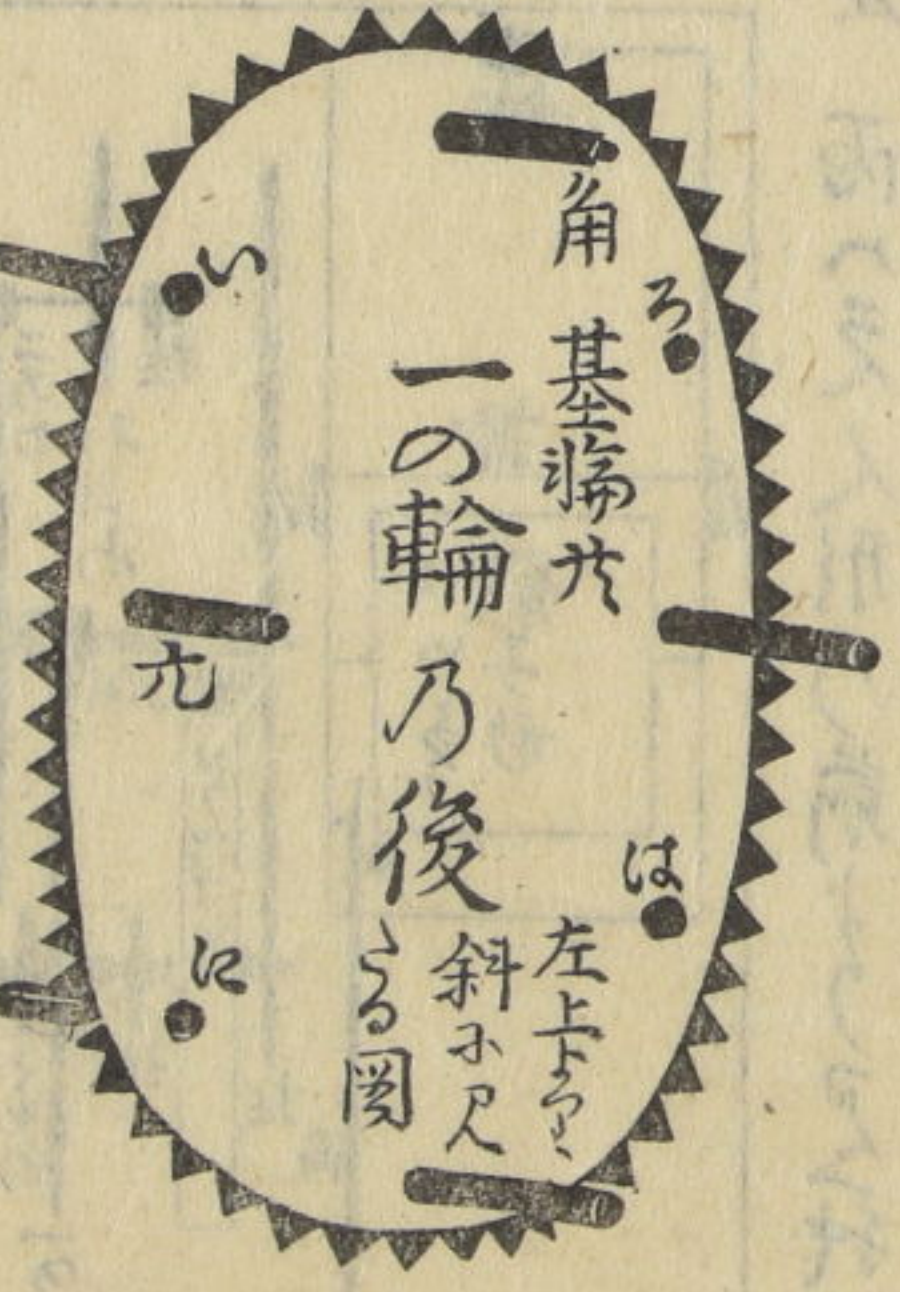
臺上乃板の裏おて⑰乃旋る図左乃ど



此圖より所甲形の子面臺
 乃蓋の裏を着く次(丙)の
 ちめ(甲)めぐる由先(卯)の角
 ころして(寅)乃角臺の裏をき
 して終ふ又(丑)乃面臺裏を
 つく次亦めぐるして(辰)の面
 (巳)乃面臺の裏を着てお乃
 くそのおりてお在るとる
 の化物臺乃おりておわ
 けゆるあり(寅)(卯)ホ乃角臺の
 裏をきりてめぐるの解圖
 左乃い

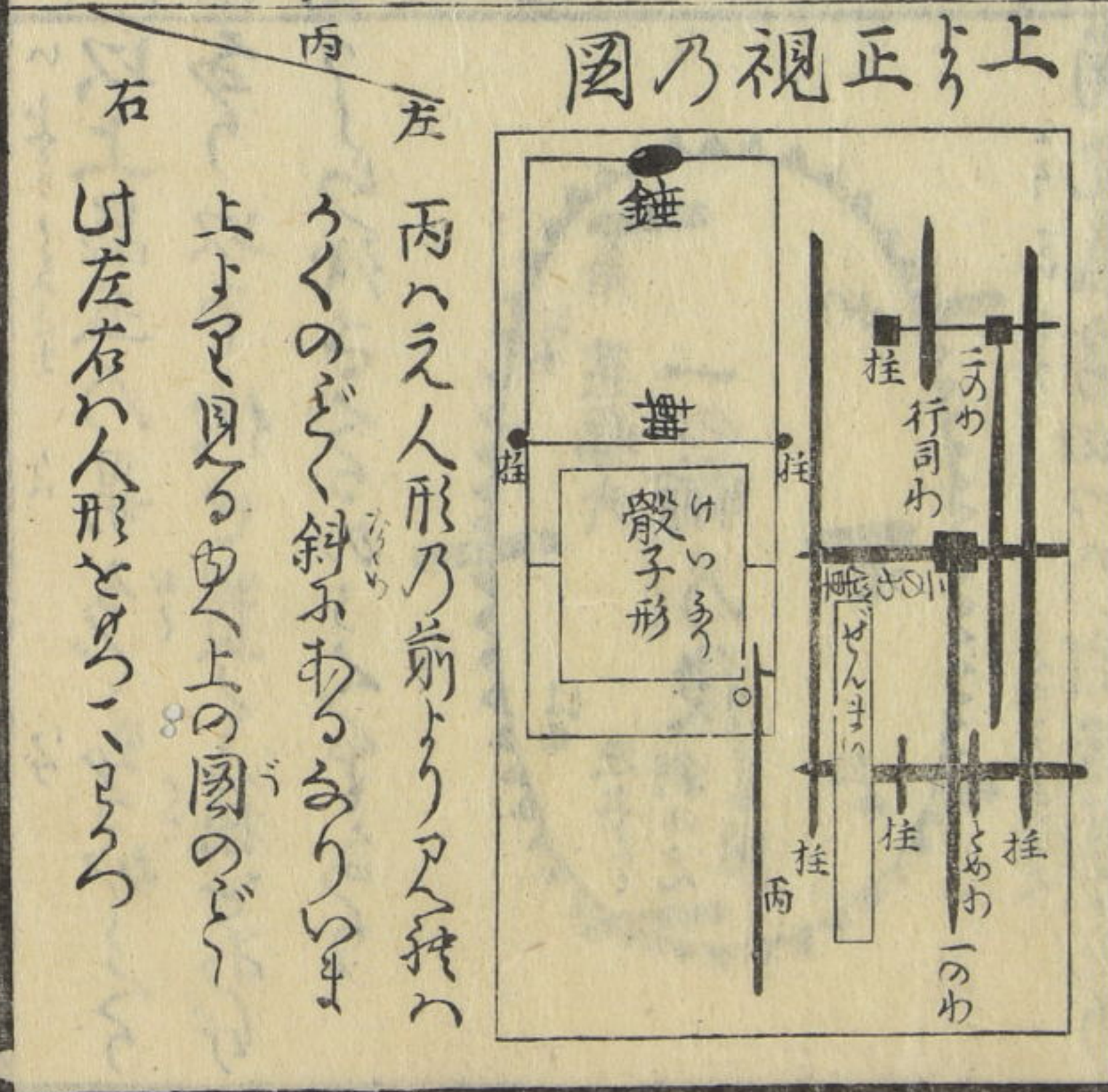
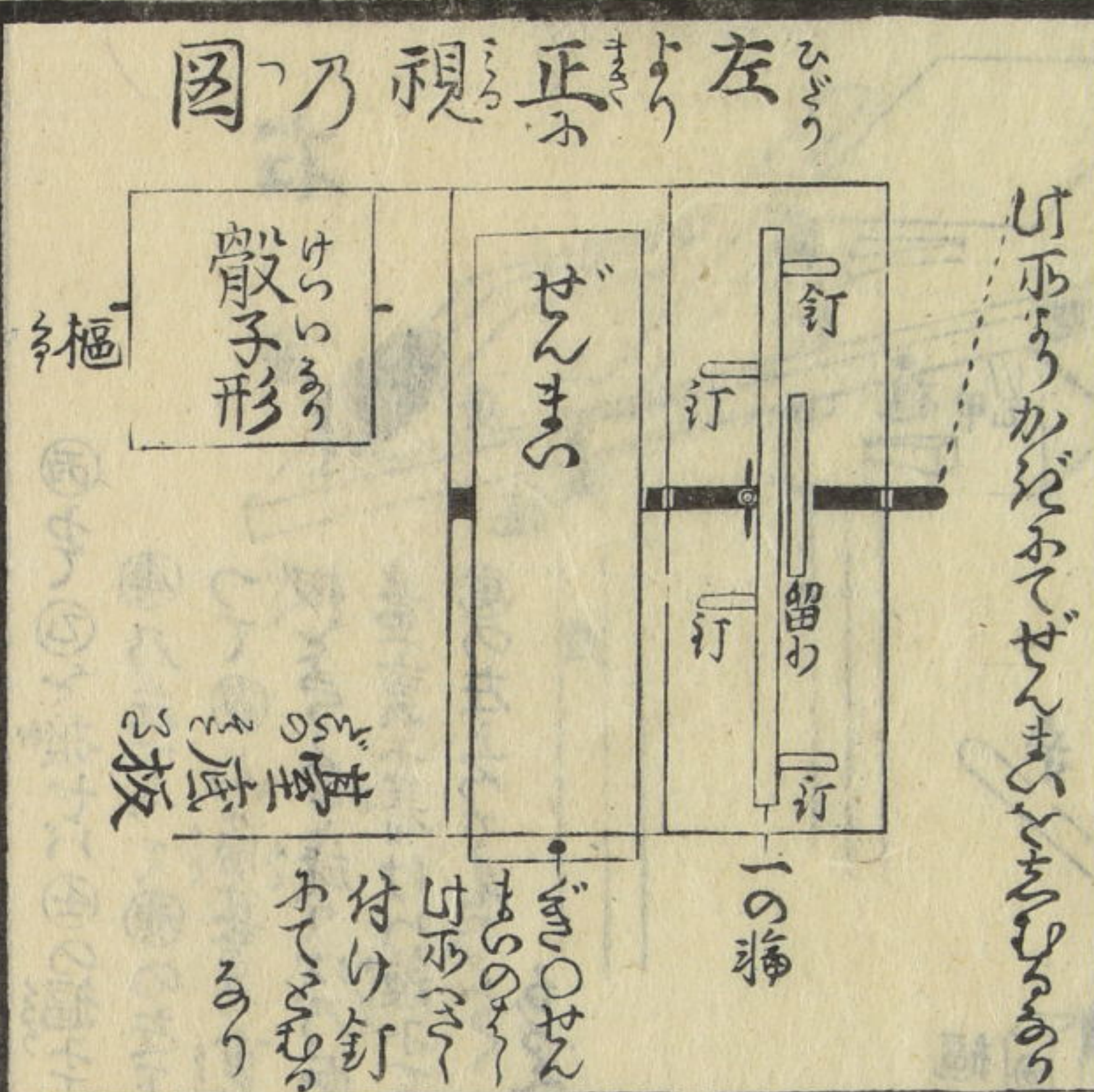


(丙)を(乙)を推せば(全)の樞を
 (庚)乃左下つて(庚)の左下
 つて(寅)乃角臺乃裏
 板をきりて旋り次乃面
 臺裏を着け(鐘)を
 (寅)の左上つてえ乃とく
 るとく

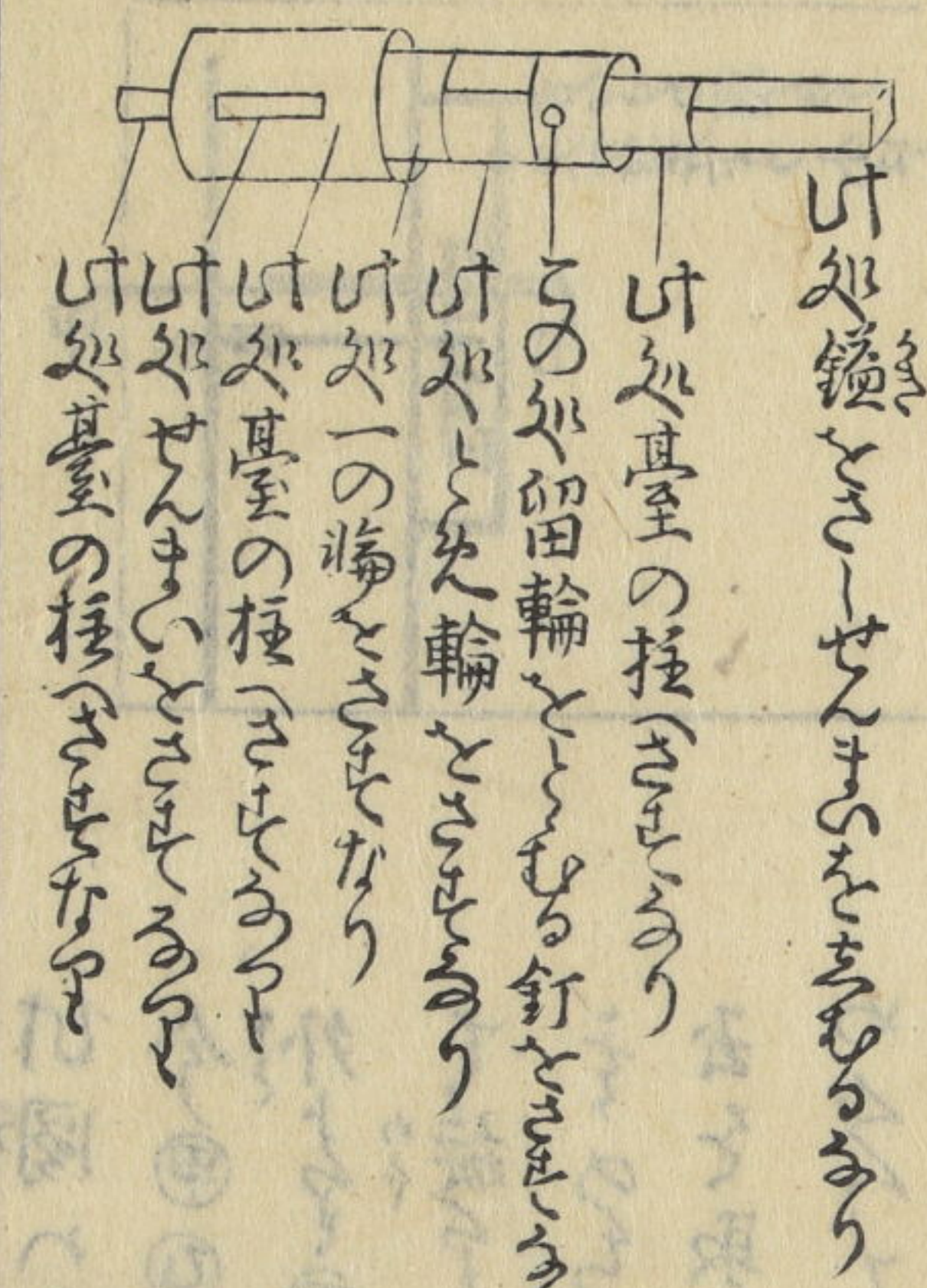


以上品玉乃易るぐおろか
 あり以下伏せ置く箱とあげ
 ころしてさぐるかろくあり
 角基輪丸
 一の輪乃後 斜お尺
 左より
 丸
 乙
 丙
 角(丙)氏房四つ乃釘後面おあり
 是かて人飛手と上げおまら依せ
 る箱とよるあり
 又かからと下ぐる系をひくあり
 総圖と見合せて
 おきありあり

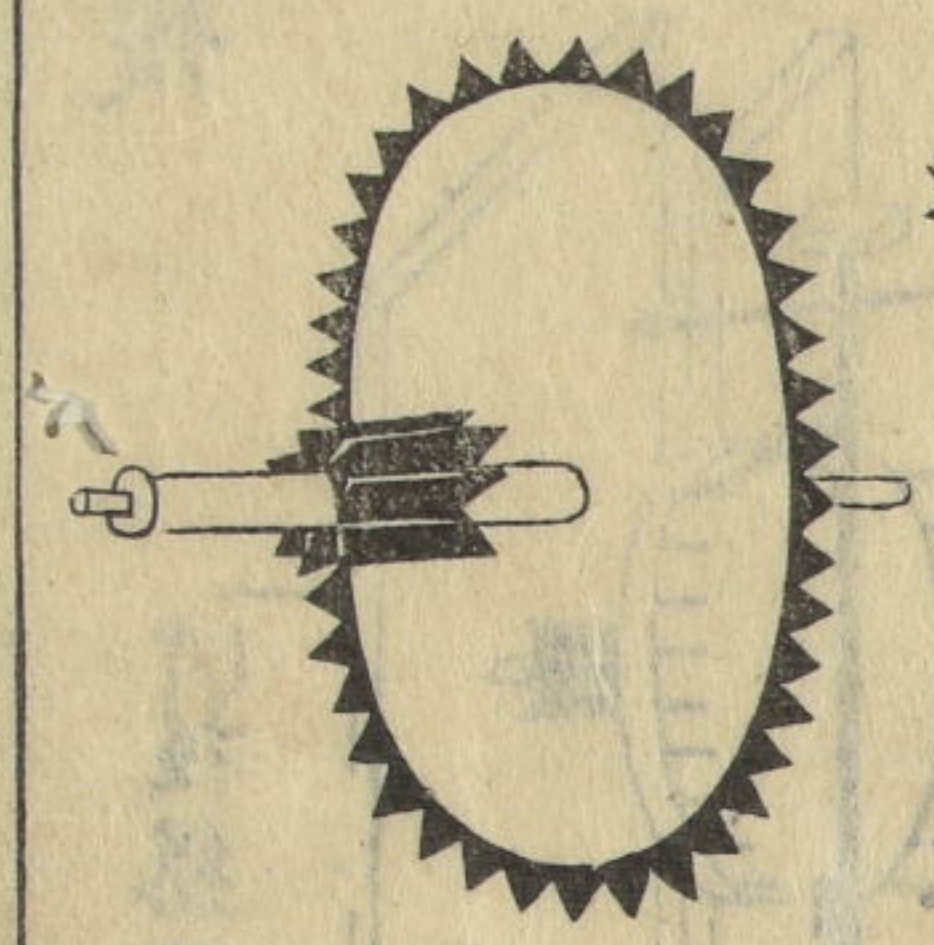
①②③④乃四の釘前面あり足おて品く乃物易を
おるありこも総圖と見合と明あり前乃腕釘皆
後乃腕の中間置くありかやう小きもこバ伏箱とわげ
又伏せる間小品入替入るこ二乃輪後より正視乃圖左のど



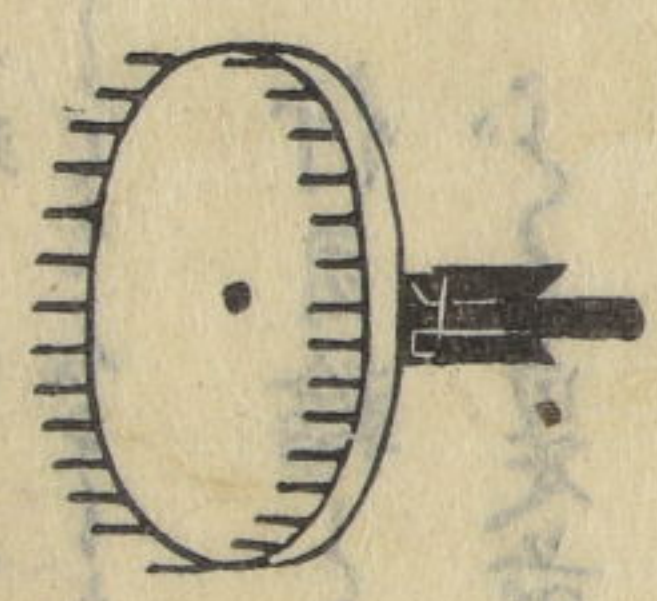
一乃輪の心棒



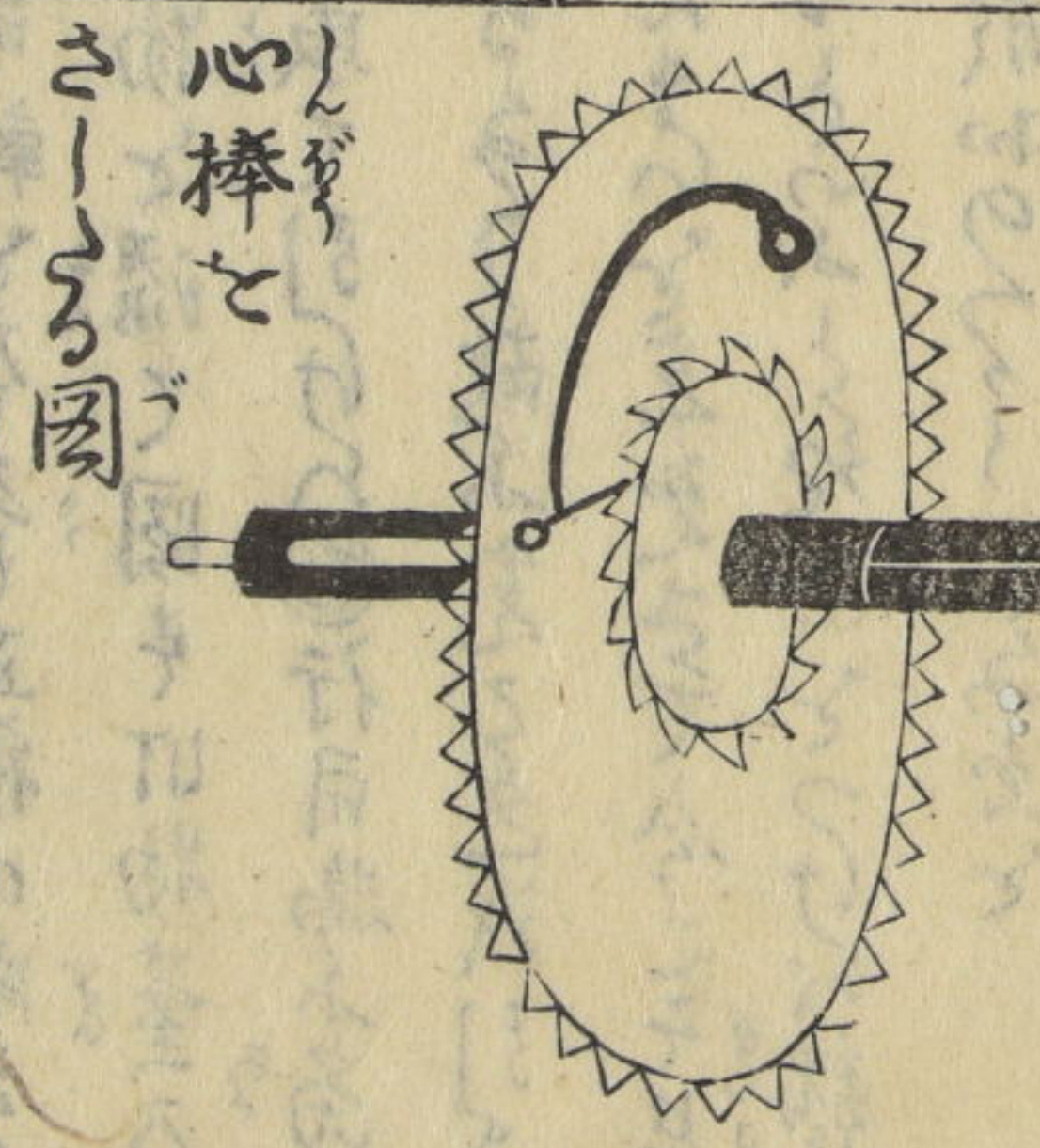
二の輪



行司輪



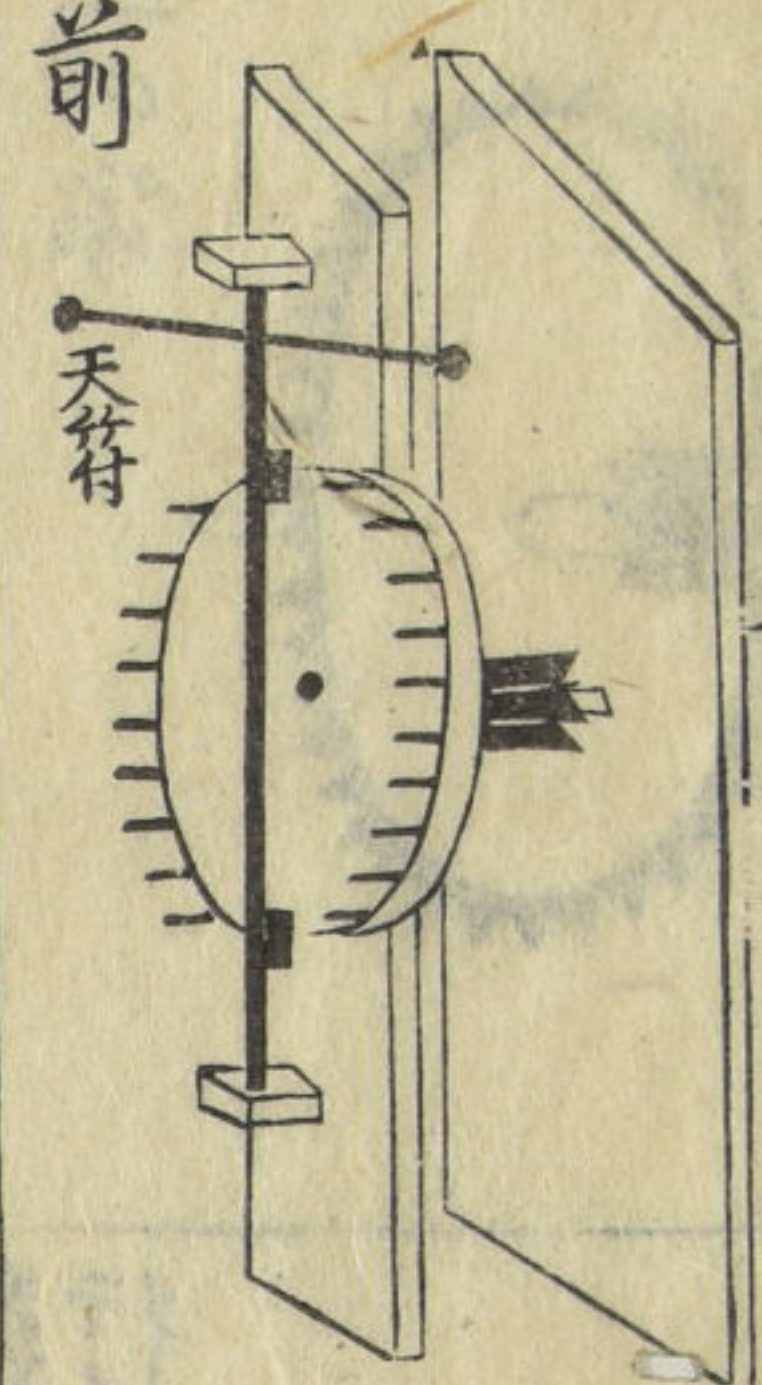
一の輪留輪



金おて制せきこ此
齒は乃ど如くそ又
木を用ひこハ如け
只釘を打てよ

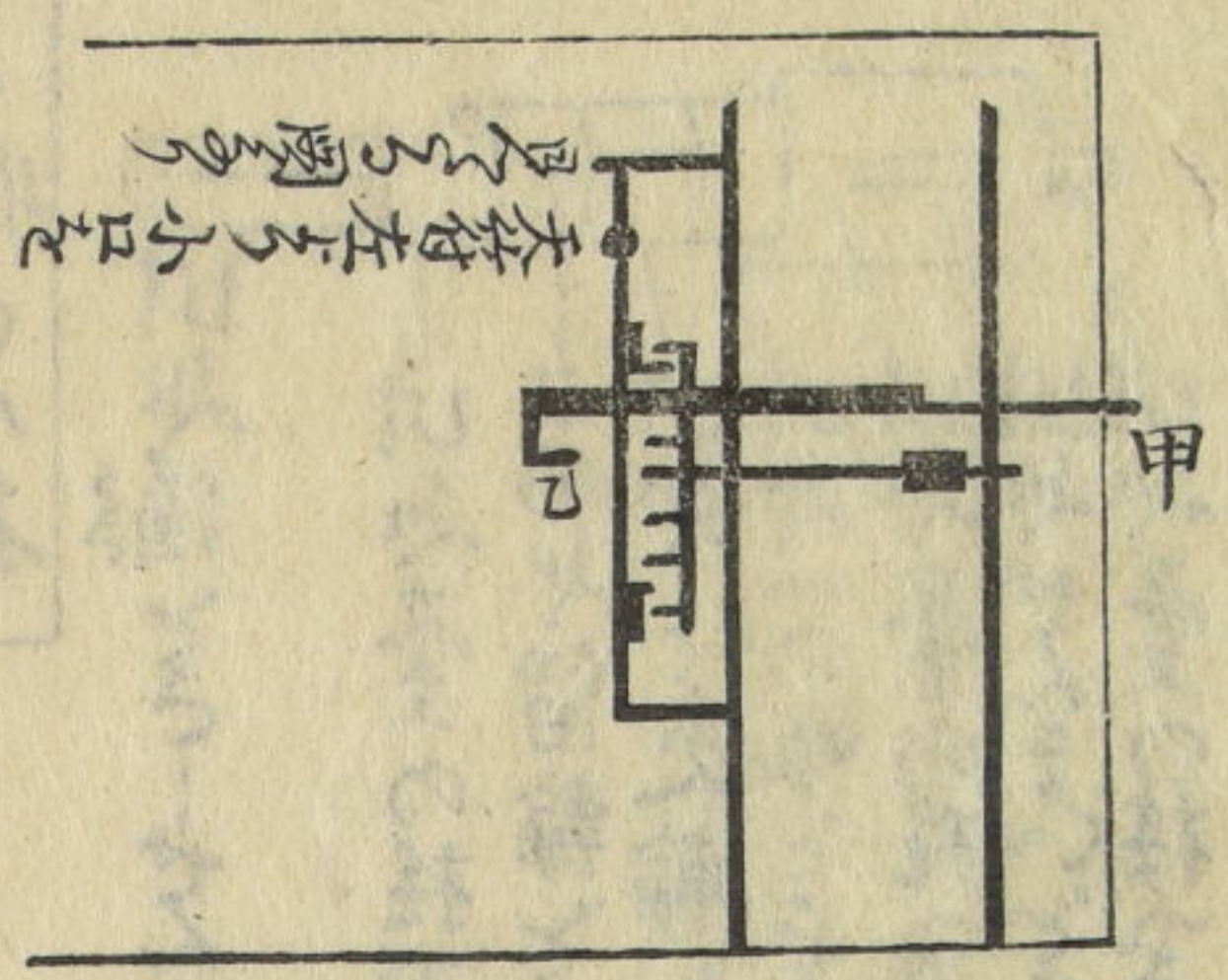
後

前



け柱総圖にて一乃端とさしたる柱をさしきりてさしやうか
しともくさしやうか

行司輪と天符と取組やうくの
いゝ是前の左より斜に見たる図
あり



け図の行司輪を左より正視の図あり
今甲乙乃物を添て図をけ物基乃
外より甲を取て引けの行司端より
て旋を止るなり故に先こせ引き
そのちせんまをさえさて今こそ最
玉を取るといふと乙甲をつけば諸端
めぐらて人形おのつゝゝゝあり

